

2011年度-2019年度研究助成プログラムに関する 調査・分析支援業務 報告書※

2020年7月31日

株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門

※本資料は、株式会社日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門が作成した「2011年度-2019年度研究助成プログラムに関する調査・分析支援業務報告書」の一部を、公益財団法人トヨタ財団が抜粋したものです。

目次

1. 調査概要	2
2. 調査結果	6
2-1. 総括	6
2-2. 定量回答結果	11
2-3. 定性回答結果	52

1. 調査概要

1. 調査概要

本調査は以下の要領で実施した。

- アンケート名：研究助成プログラムに関するアンケート
- 実施目的：
 - 貴財団が、2011年度以降実施されてきた研究助成プログラムについて、これまでの振り返りを行うこと（※1）
 - その結果を踏まえ、来年度から新たに開始される予定の助成プログラムの運営に向けた示唆を得ること
- 実施期間：2020年5月29日（金）～6月29日（月）
 - ※上記はインターネット上の回答サイトより回答頂いた方へのアンケート実施期間を指す。
 - 一部の回答者からは上記回答締め切り後に、エクセルファイルで回答を受領した。
- 配布対象者：2011～2018年度の研究助成プログラムにおける助成者（共同研究の場合は、原則代表者）
- 配布対象者数：260名（うち、9名には配布せず）
- 実施方式：下記のいずれか（または両方）で回答
 - インターネット上に開設したアンケート回答サイト（対象：回答時にGDPR（※2）対象地域に所在しない回答者）
 - エクセルファイル（対象：回答時にGDPR対象地域に所在していた回答者、何らかの事情で回答サイトにて回答が完結できなかった回答者、および締め切り後に回答した回答者）

（※2）EU一般データ保護規則

1. 結果概要

最終的に、アンケート実施前の目標である回答率70%を超える、72.5%の回答者から回答を得た。

項目	数値	備考
リスト掲載の配布対象者数	260名	同一人物の重複助成は別々にカウント
うち、アンケート送付対象外	9名	送付不要の方など
上記を除いた、有効対象者数	251名	260-9=251
回答者総数	182名	
①インターネット上の回答サイトより回答	165名	一部をエクセルで回答した方も含む
②エクセルで回答	17名	-
非回答者数	69名	多忙を理由に回答不可とのお返事があった方も含む
回答率	72.5%	182÷251≒72.51

2. 調査票

別紙ご参照。

別紙ファイル名：

「別紙_研究助成プログラムに関するアンケート調査票_GDPR.xlsx」

「別紙_研究助成プログラムに関するアンケート調査票_非GDPR.xlsx」

「Attachment_Questionnaire survey on Research Grant Program_EEA.xlsx」

「Attachment_Questionnaire survey on Research Grant Program_NonEEA.xlsx」

2. 調査結果

2-1. 総括

2-2. 定量回答結果

2-3. 定性回答結果

集計結果：回答者属性・プロジェクト概要

国際性・多様性に富んだプロジェクトが実施されている。全体としては、人文社会系の、社会や人々に近い部分での実践的で独創的な研究が多く行われている。

- 大学で常勤で勤務する回答者が全体の半分以上を占めるが、若手研究者や、NPO/NGO関係者なども数は少ないが含まれる。【質問2】
- 現在の所在地は国内に居住する研究者が7割以上。国外ではアジア・オセアニアや欧州を中心に世界中に研究者が所在。【質問4】
- 個人研究と共同研究が概ね半々。後者は6～10名、3～5名での実施が中心。【質問5・6】
- 共同研究は他大学・研究機関に所属する研究者を含めた共同研究が最多。他国の研究者との共同研究を実施した回答者が65%を占める。【質問7・8】
- 研究分類としては基礎研究が50%以上を占める。【質問10】
- 研究系別にみると、人文社会系、または同分野にまたがる研究を実施した研究者が最多。これと関連し、貢献できる領域としては「暮らし/コミュニティ」が最多で、「教育」、「文化/芸術」、「ダイバーシティ/共生」が続く。また、プロジェクトのタイプは「実践的」や「独創的」と形容する研究者が最多。【問11～14】
- プログラムの裨益者としては、「当事者（研究対象、或いは研究対象地の住民）」や、「一般市民」が最多。前問とも関連し、社会や人々に近い部分で、実践的な研究が実施されていることがうかがえる。【問15】

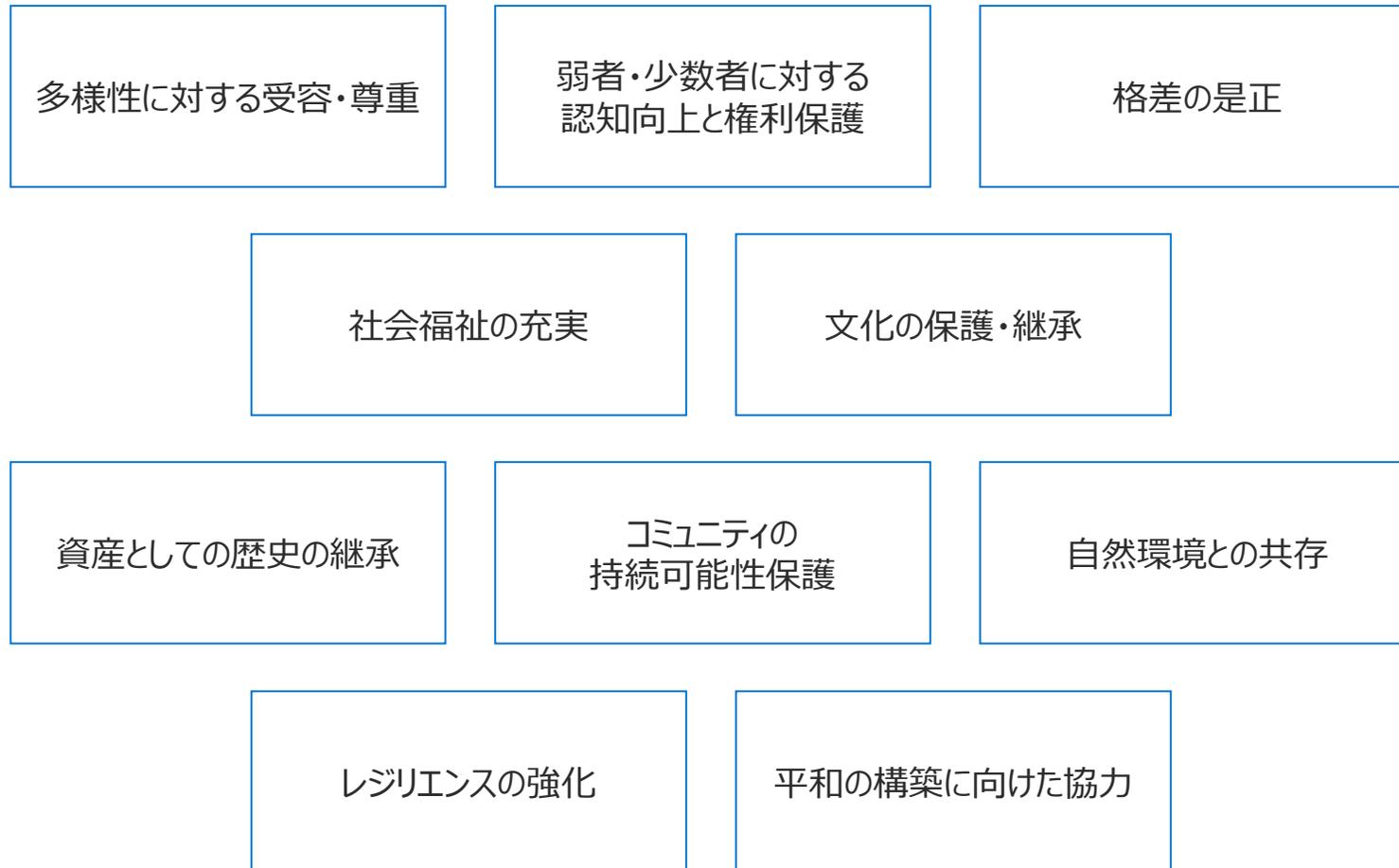
集計結果：プロジェクトの結果

多少の変更があっても、概ね想定通りまたはそれ以上に当初の目的を達成できた研究者が90%以上を占める。助成終了後も同じか関連する研究を続ける方が90%以上を占め、若手の育成にも貢献。

- 当初の目的達成について、「想定以上に、または想定通りに実施できた」と回答した研究者は4割程度。他方で「一部課題は残るが、概ね達成できた」と回答した回答者が過半を占めた。【質問18】
- スケジュールや支出計画に関しては「やや変更があった」との回答が57%。【質問19】
- 共同研究実施者の85%が、理想的な協力体制を築け、期待通りまたはそれ以上の効果が得られたと回答。【質問20】
- プロジェクトのアウトプットとしては、日本語・英語いずれも、学会で発表した回答者が最も多く、次いでシンポジウム・ワークショップの開催や論文寄稿が続く。【質問21・22】
- 約9割の回答者が概ね記載内容に近い成果かそれ以上の成果を創出したと回答。【質問23】
- 9割以上の回答者が、同じあるいは関連するテーマを現在も継続的に研究している。【質問26】
- 助成後の情報発信形態として最も多いのは論文寄稿であり、次いで多いのが、学会発表である。【質問27】
- 他の研究者、ステークホルダー、市民ネットワークとの緩やかな社会資本ネットワークを確立した回答者が6割以上。【質問31】
- 7割以上の回答者の学会や職場におけるポジションが向上した。【質問32】
- 助成プロジェクトに参加した大学院生などの若手研究者の多くは、研究における功績を挙げ、研究を継続している。【質問33】

集計結果：プロジェクトを通してめざした「社会の新たな価値」

定性コメントをまとめると、プログラムを通じて以下のような「社会の新たな価値」が目指された。



集計結果：プログラムに対する評価

プログラムに対する満足度は非常に高い。特に、テーマや研究者に対する間口の広さ、財団からのサポート、運用面での柔軟性の高さが高評価を受けている。他方で、事務手続き面での改善要望やネットワーキング機会へのニーズが定性コメントから読み取れた。

- 学術横断的テーマでも採用されること、研究と実践の両方を取り入れたプロジェクトが採用されること、応募資格に関する制限が少ないことが、本プログラムの代表的な利点であることがわかった。【質問34】
- 既存の学問領域にとらわれない幅広い研究分野、国際共同研究、学際的な研究へ助成していることや、多様な人材に門戸を開いていることが期待されている。他方、研究テーマの絞り込みは希望されていない。【質問35】
- 社会コミュニケーションプログラムは、プログラム自体を知らない、あるいは活用の仕方がわからない回答者が過半数を占めた。活用していない回答者とあわせると、全体の70%となった。【質問37】
- ほぼすべての研究者が本プログラムに満足している。【質問38】
- 学術的な成果に囚われず、社会が必要としている革新的あるいは実践的な研究を多様に採択している点を、評価するコメントが寄せられた。【質問39自由回答】
- 財団のプログラムオフィサーからの助言を評価する声は多数寄せられた。特に、回答者は、研究中の課題解決において助言を受けた点を評価している。【質問39自由回答】
- 助成金の運用に関する柔軟性が高いことを評価するコメントが多い。他方、経費申請の方法については、改善の余地がある。【質問39自由回答】

- プログラムに対する満足度は極めて高い。
- 高評価を受けているポイントは、①既存の学術分野や学術的な成果に囚われないプロジェクトへの助成（間口の広さ）、貴財団からのプログラム中の助言・支援（財団からのサポート）、運用面の使いやすさ（柔軟性の高さ）。
- 他方で、経費申請にかかる手続き面での改善要望やネットワーキング機会へのニーズが定性コメントから読み取れた。

2. 調査結果

2-1. 総括

2-2. 定量回答結果

2-3. 定性回答結果

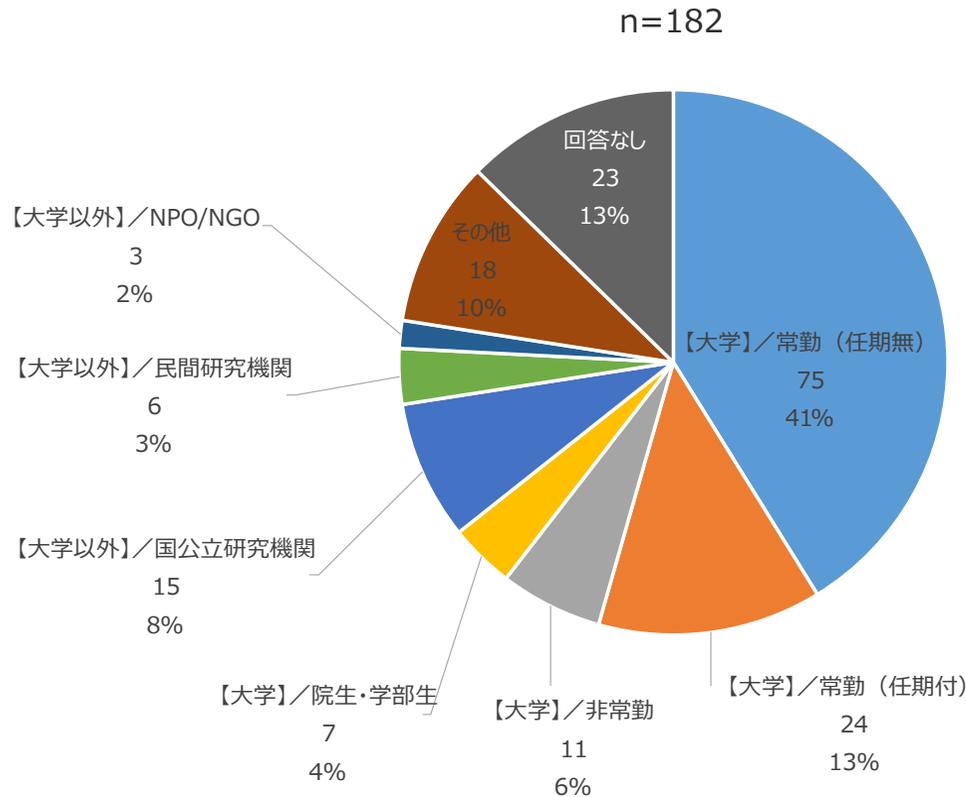
集計結果：回答者属性・プロジェクト概要

国際性・多様性に富んだプロジェクトが実施されている。全体としては、人文社会系の、社会や人々に近い部分での実践的で独創的な研究が多く行われている。

- 大学で常勤で勤務する回答者が全体の半分以上を占めるが、若手研究者や、NPO/NGO関係者なども数は少ないが含まれる。【質問2】
- 現在の所在地は国内に居住する研究者が7割以上。国外ではアジア・オセアニアや欧州を中心に世界中に研究者が所在。【質問4】
- 個人研究と共同研究が概ね半々。後者は6～10名、3～5名での実施が中心。【質問5・6】
- 共同研究は他大学・研究機関に所属する研究者を含めた共同研究が最多。他国の研究者との共同研究を実施した回答者が65%を占める。【質問7・8】
- 研究分類としては基礎研究が50%以上を占める。【質問10】
- 研究系別にみると、人文社会系、または同分野にまたがる研究を実施した研究者が最多。これと関連し、貢献できる領域としては「暮らし/コミュニティ」が最多で、「教育」、「文化/芸術」、「ダイバーシティ/共生」が続く。また、プロジェクトのタイプは「実践的」や「独創的」と形容する研究者が最多。【問11～14】
- プログラムの裨益者としては、「当事者（研究対象、或いは研究対象地の住民）」や、「一般市民」が最多。前問とも関連し、社会や人々に近い部分で、実践的な研究が実施されていることがうかがえる。【問15】

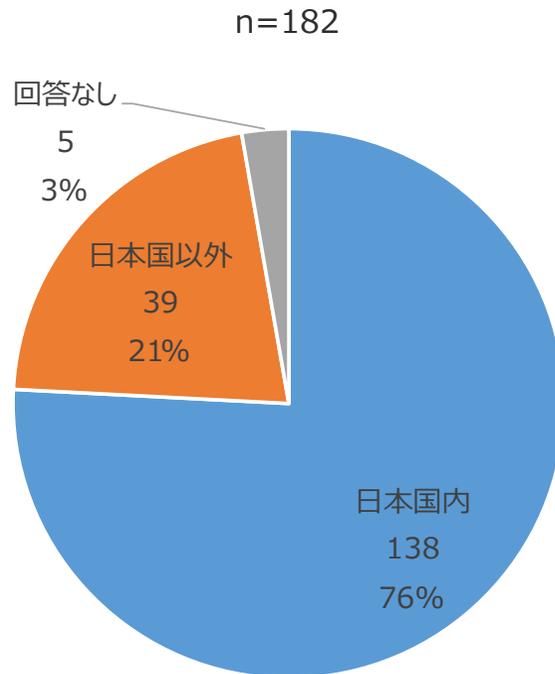
問2. あなたの今の所属を、次の中から1つ選んでください。複数の所属がある方は主たる所属を選んでください。

大学で常勤で勤務する回答者が全体の54%を占める。院生・学部生などの若手研究者や、NPO/NGO関係者なども数は少ないが含まれており、プログラムの間口の広さを特徴づけている。



問4. あなたの今の居住地（国名）を教えてください。

国内に居住する研究者が76%。国外ではアジア・オセアニアや欧州を中心に世界中に研究者が所在。

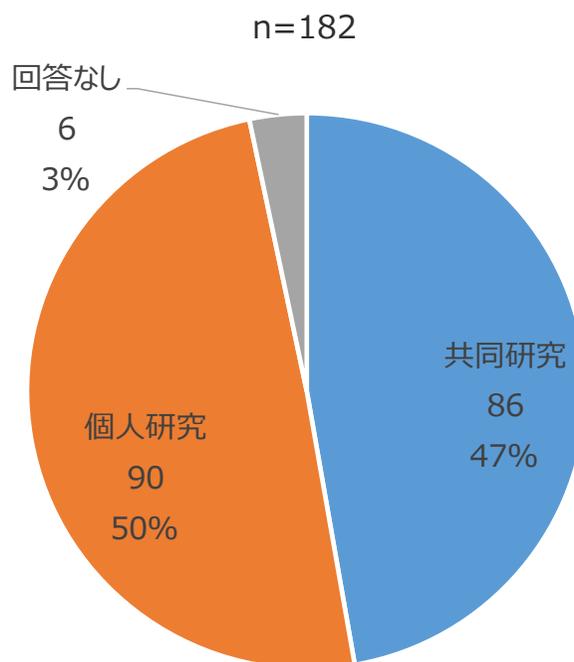


地域	地域別人数	国名	国別人数
北米	4	米国	2
		カナダ	1
		「北米」	1
南米	3	コロンビア	1
		アルゼンチン	1
		メキシコ	1
アジア・オセアニア	14	オーストラリア	1
		ベトナム	3
		インド	1
		インドネシア	1
		マレーシア	1
		韓国	2
		タイ	2
		ネパール	1
		モンゴル	1
		中国	1
		中東	1
アフリカ	1	モザンビーク	1
欧州	11	オーストリア	1
		フランス	1
		オランダ	3
		英国	4
		アイルランド	1
		ドイツ	1
記載なし	5	-	-

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

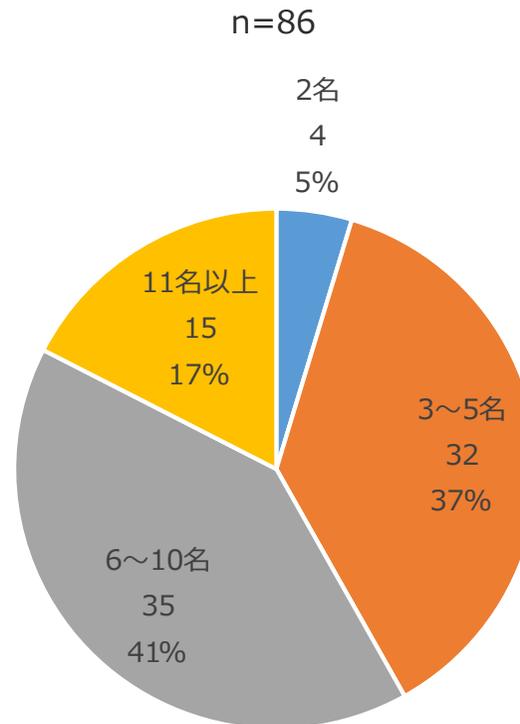
問5. 研究助成の枠組みについてお伺いします。あなたは次のどれに該当しますか。

共同研究と個人研究が概ね半々となっている。



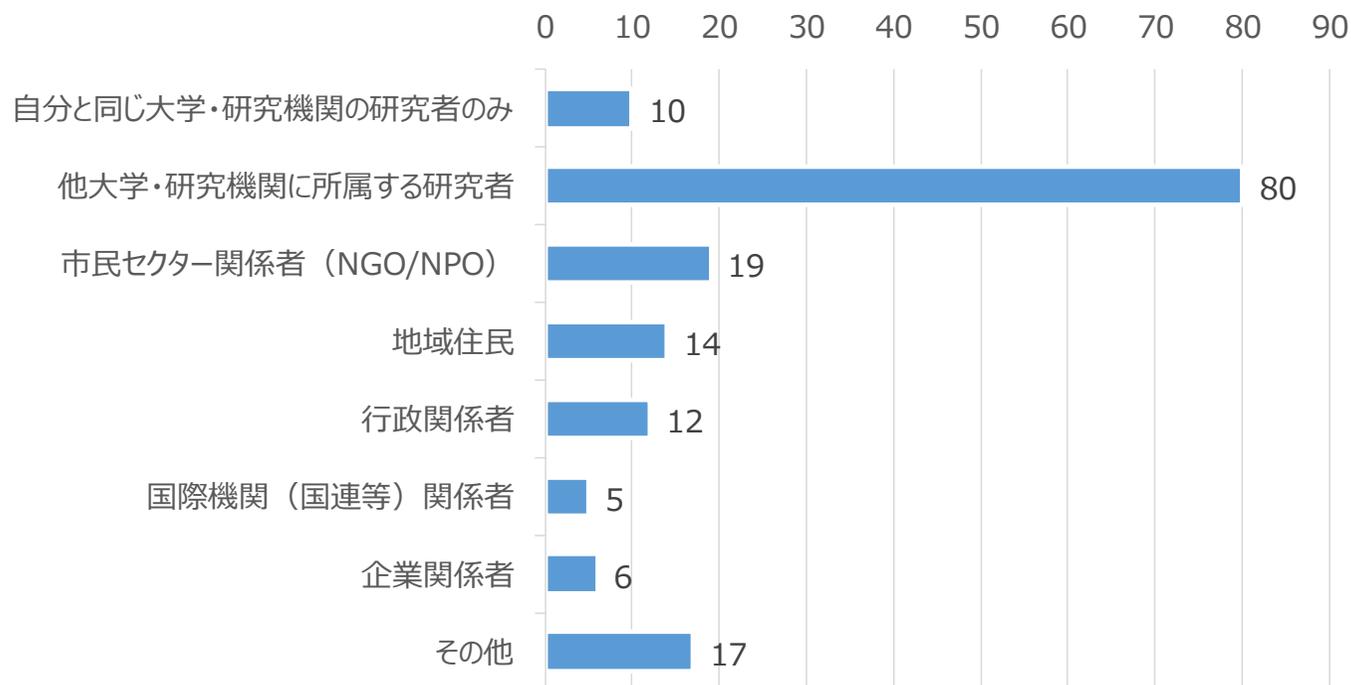
問6. (共同研究実施者向け) あなたご自身を含めたプロジェクト参加者の人数を教えてください。

3～5名での研究、6～10名での研究がそれぞれ4割程度を占める。



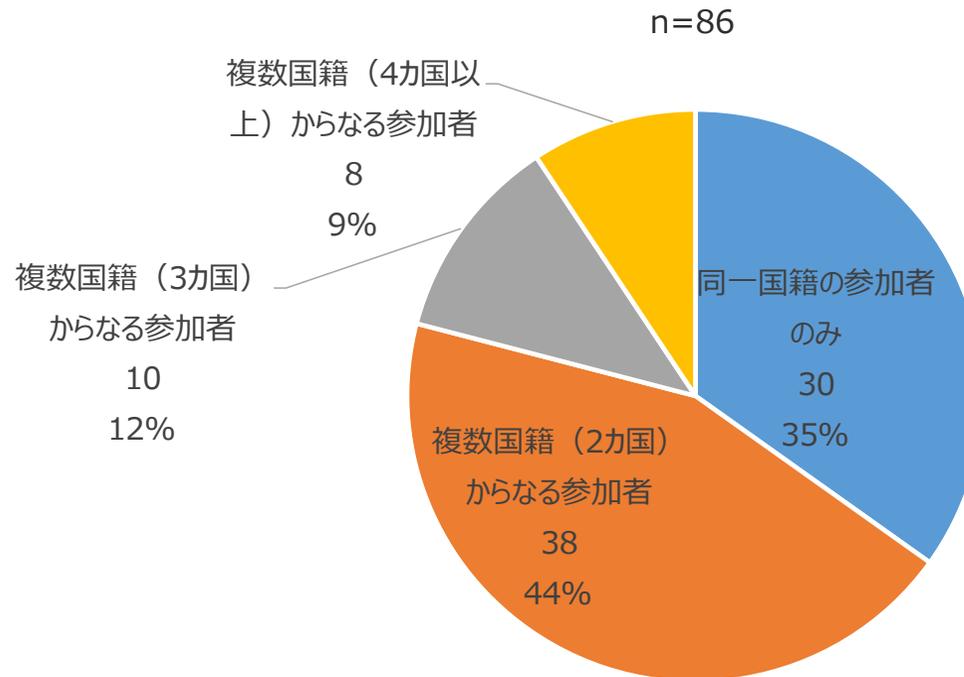
問7. (共同研究実施者向け) プロジェクト参加者の構成を教えてください。(複数回答)

他大学・研究機関に所属する研究者を含めた共同研究が最多。



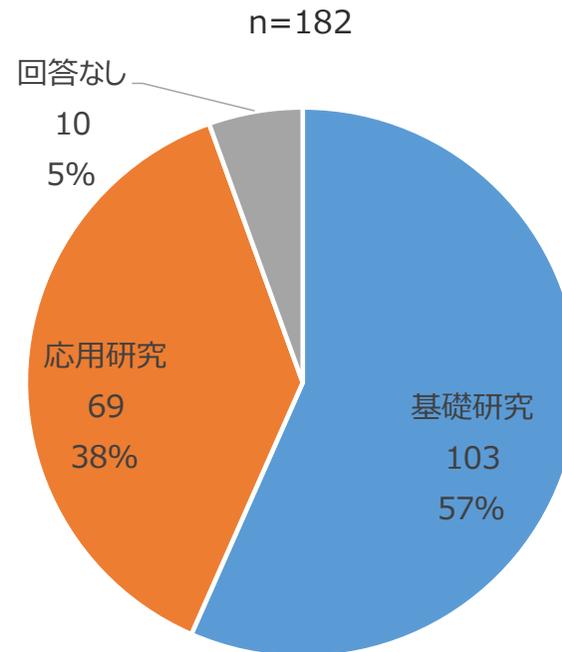
問8. (共同研究実施者向け) プロジェクト参加者の国籍の構成を教えてください。

複数国籍からなる参加者で共同研究を実施した研究者が44%と最多。
 3カ国以上からなる参加者での実施も2割存在。



問10. 助成を受けたプロジェクトは、次のうちどれに当てはまりますか。

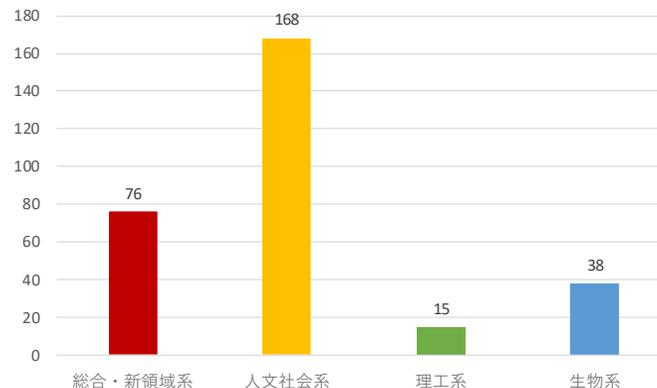
基礎研究が57%を占める。



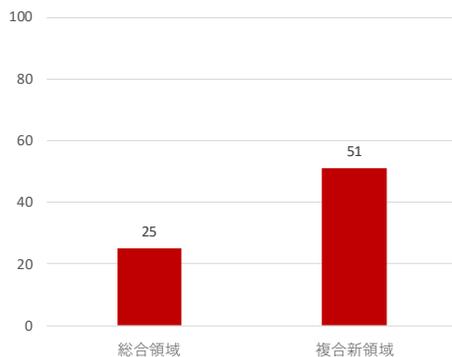
問11. 助成を受けたプロジェクトがもっとも当てはまると考えられる系・分野を選んでください。(複数回答3つまで)

研究系別にみると、人文社会系、または同分野にまたがる研究を実施した研究者が最多。
 分野別では、社会科学が最多となっている。

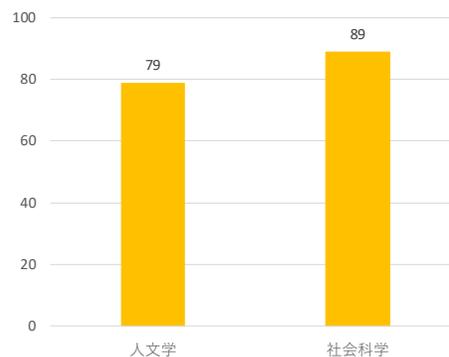
(上) 研究系別の結果
 (下) 研究分野別の結果



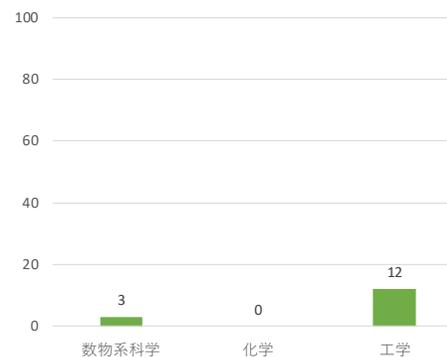
総合・新領域系



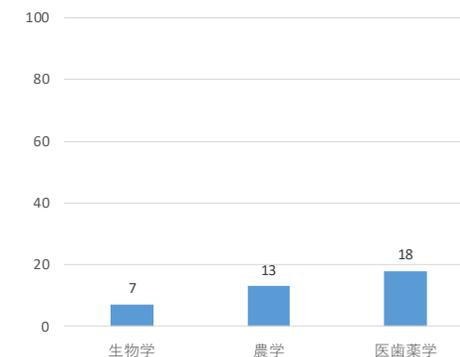
人文社会系



理工系



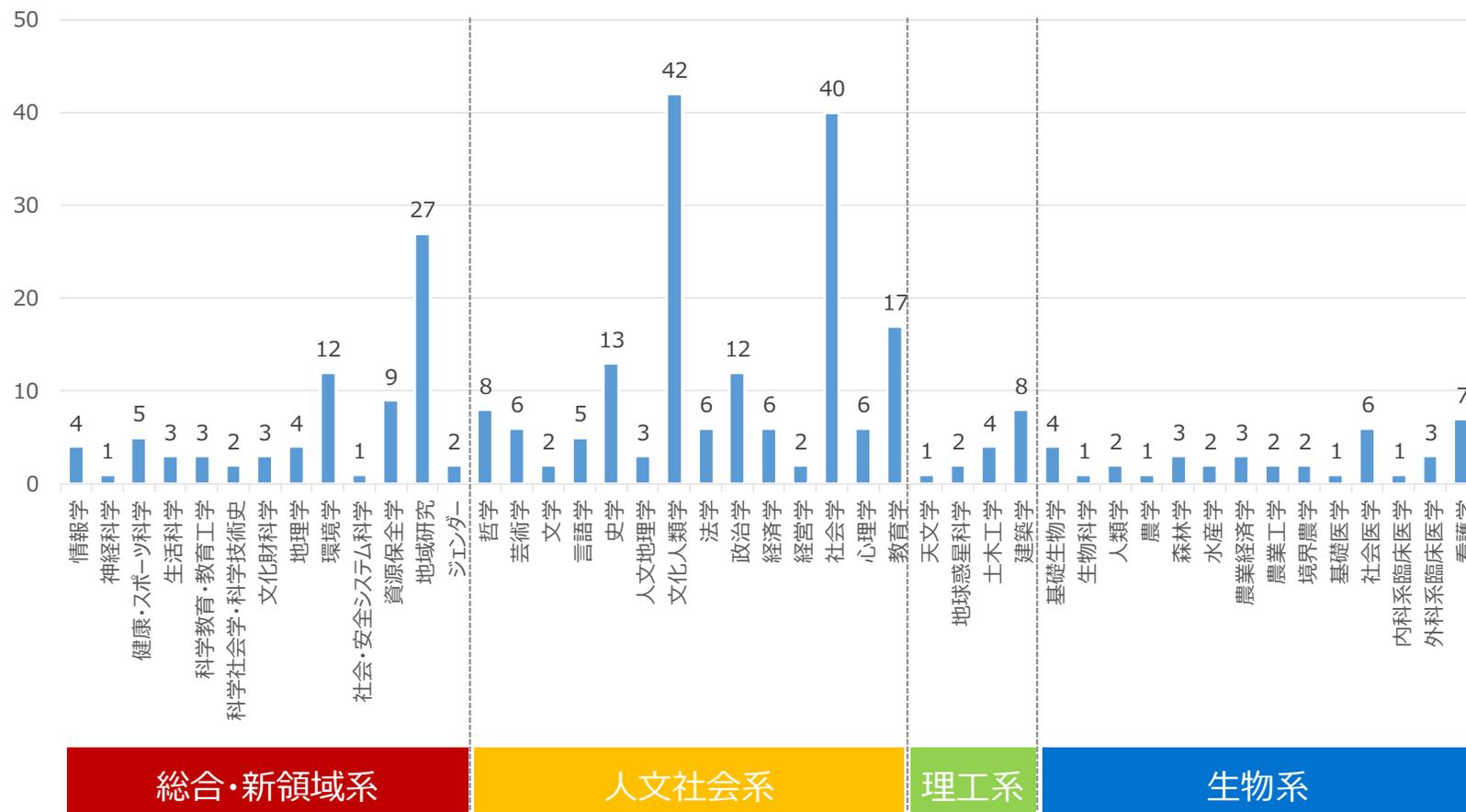
生物系



出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

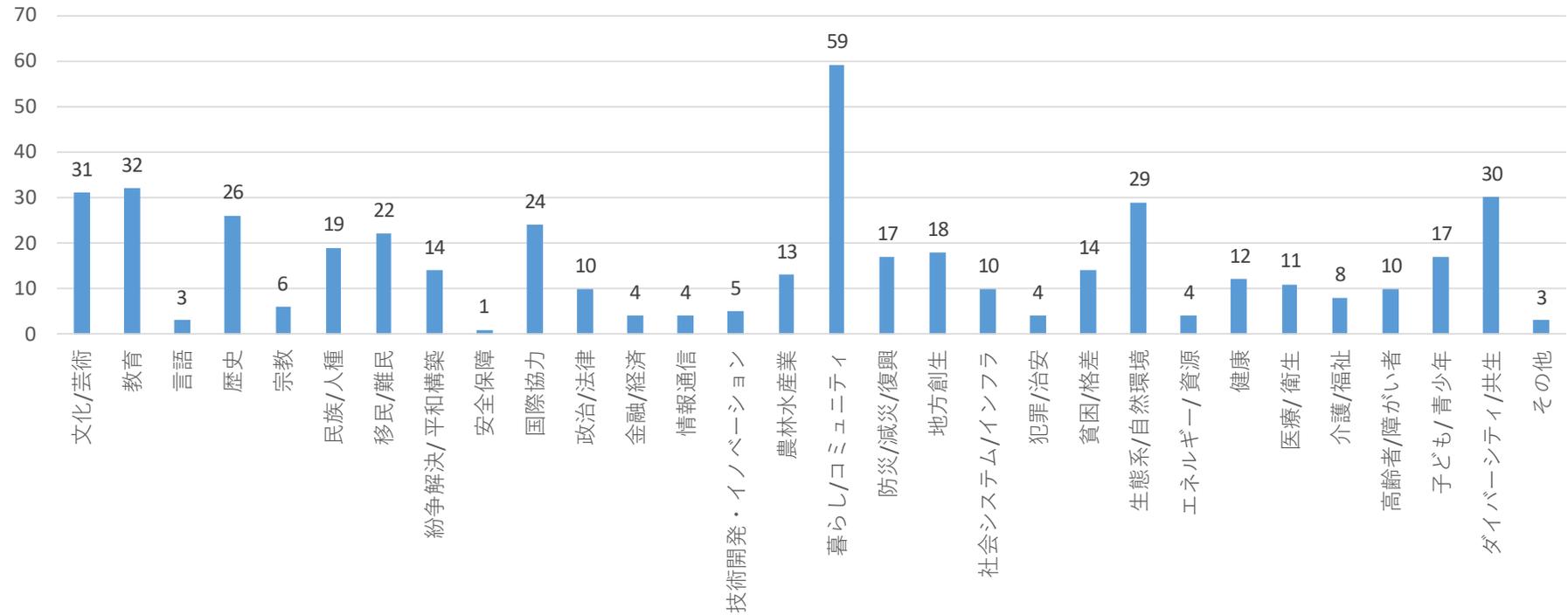
問11. 助成を受けたプロジェクトがもっとも当てはまると考えられる系・分野を選んでください。（複数回答3つまで）

分科別にみると、文化人類学、社会学が最も多く、地域研究や教育が続く。



問12. 助成を受けたプロジェクトが貢献できると思う領域を、次の中から3つまで選んでください。

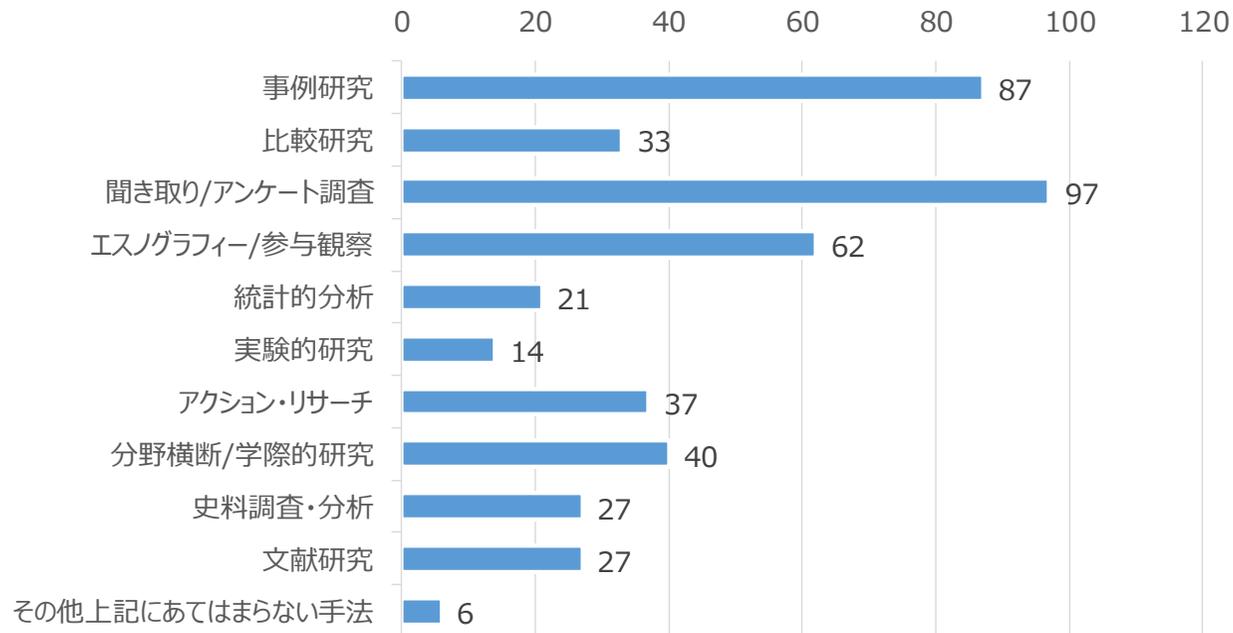
貢献できる領域としては「暮らし/コミュニティ」が最多で、「教育」、「文化/芸術」、「ダイバーシティ/共生」が続く。貴財団の助成プログラムならではの重要な特徴と史料。



出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

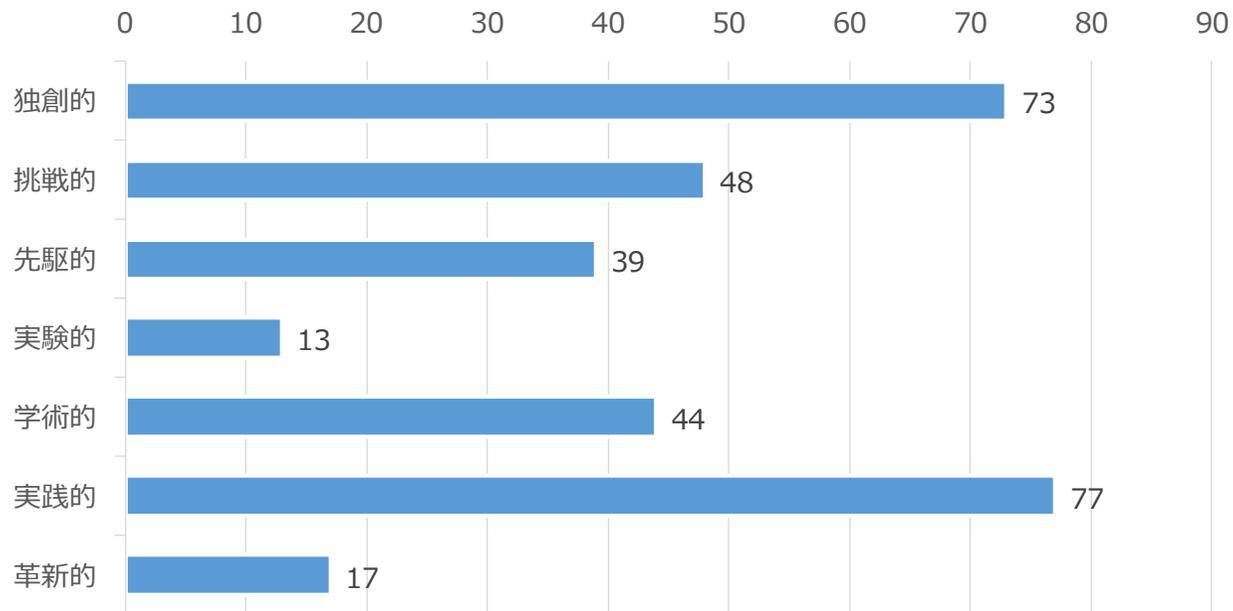
問13. 助成を受けたプロジェクトで用いた手法として当てはまると考えられるものを、次の中から3つまで選んでください。

人文社会系、或いは同系にまたがる研究が多いこともあり、手法としては「聞き取り/アンケート調査」が最多で、事例研究やエスノグラフィー/参与観察が続く。



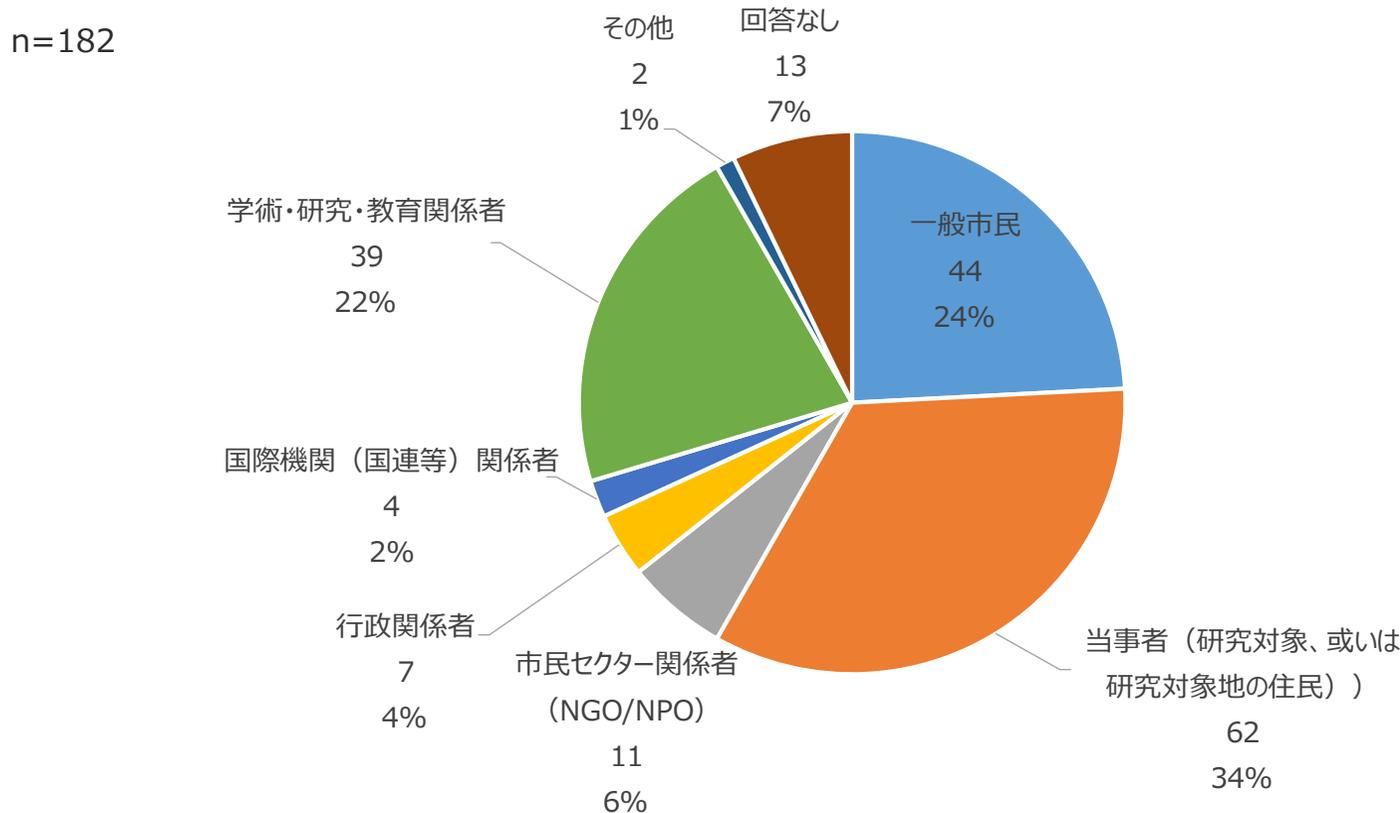
問14. 助成を受けたプロジェクトはどのようなタイプと位置づけられますか。次の中から2つまで選んでください。

プロジェクトのタイプは「実践的」や「独創的」と形容する研究者が最多。



問15. 助成を受けたプロジェクト成果の裨益者として、もっとも当てはまると考えられる対象を選んでください。

プログラムの裨益者としては、「当事者（研究対象、或いは研究対象地の住民）」や、「一般市民」が最多。前問とも関連し、社会や人々に近い部分で、実践的な研究が実施されていることがうかがえる。



集計結果：プロジェクトの結果

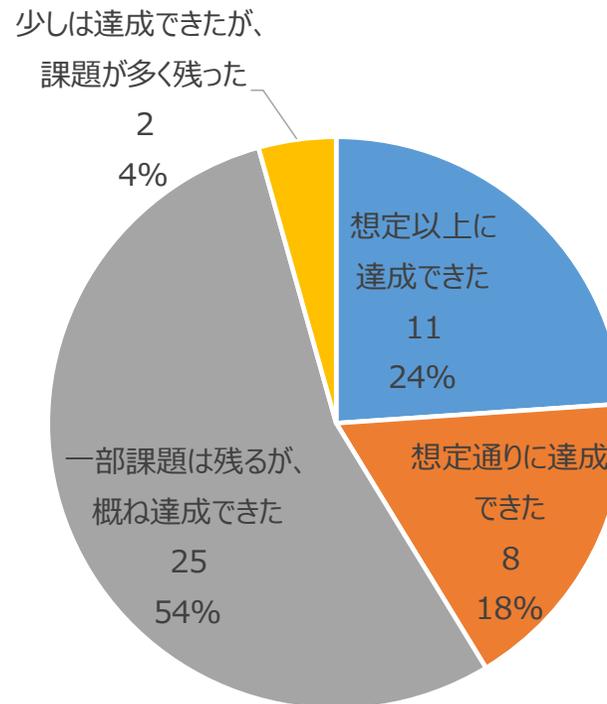
多少の変更があっても、概ね想定通りまたはそれ以上に当初の目的を達成できた研究者が90%以上を占める。助成終了後も同じか関連する研究を続ける方が90%以上を占め、若手の育成にも貢献。

- 当初の目的達成について、「想定以上に、または想定通りに実施できた」と回答した研究者は4割程度。他方で「一部課題は残るが、概ね達成できた」と回答した回答者が過半を占めた。【質問18】
- スケジュールや支出計画に関しては「やや変更があった」との回答が57%。【質問19】
- 共同研究実施者の85%が、理想的な協力体制を築け、期待通りまたはそれ以上の効果が得られたと回答。【質問20】
- プロジェクトのアウトプットとしては、日本語・英語いずれも、学会で発表した回答者が最も多く、次いでシンポジウム・ワークショップの開催や論文寄稿が続く。【質問21・22】
- 約9割の回答者が概ね記載内容に近い成果かそれ以上の成果を創出したと回答。【質問23】
- 9割以上の回答者が、同じあるいは関連するテーマを現在も継続的に研究している。【質問26】
- 助成後の情報発信形態として最も多いのは論文寄稿であり、次いで多いのが、学会発表である。【質問27】
- 他の研究者、ステークホルダー、市民ネットワークとの緩やかな社会資本ネットワークを確立した回答者が6割以上。【質問31】
- 7割以上の回答者の学会や職場におけるポジションが向上した。【質問32】
- 助成プロジェクトに参加した大学院生などの若手研究者の多くは、研究における功績を挙げ、研究を継続している。【質問33】

問18. プロジェクトを終えてみて、あなたは助成を受けたプロジェクトを通じて当初の目的を達成できたと考えますか。最も近いものを選んでください。

プロジェクトの結果については、想定以上に、または想定通りに実施できたと回答した研究者が42%にとどまった。他方で「一部課題は残るが、概ね達成できた」と回答した回答者が過半を占めた。

n=46

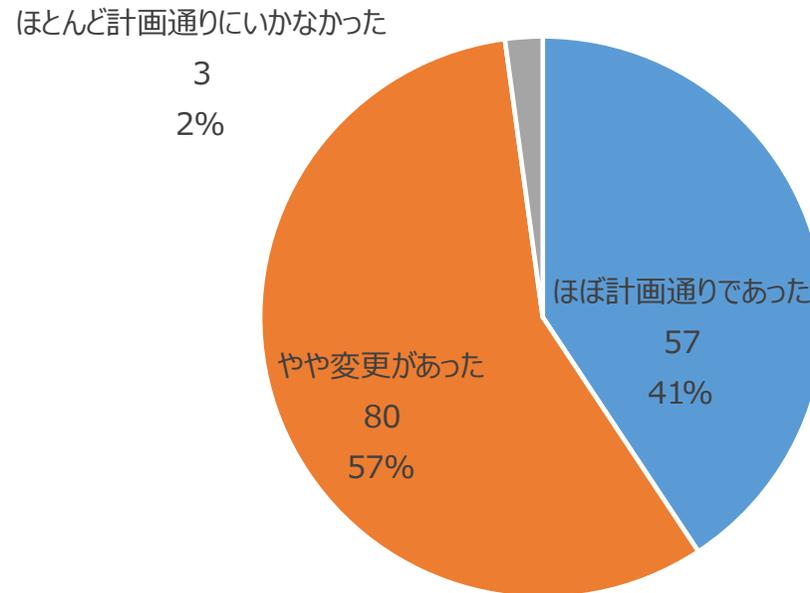


出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問19. 企画書の中で記載したスケジュールや支出計画に対し、実際のプロジェクトの進捗はどうでしたか。

スケジュールや支出計画に関しては「やや変更があった」との回答が57%。これは貴財団の助成プログラムならではの柔軟性を示す結果でもある。

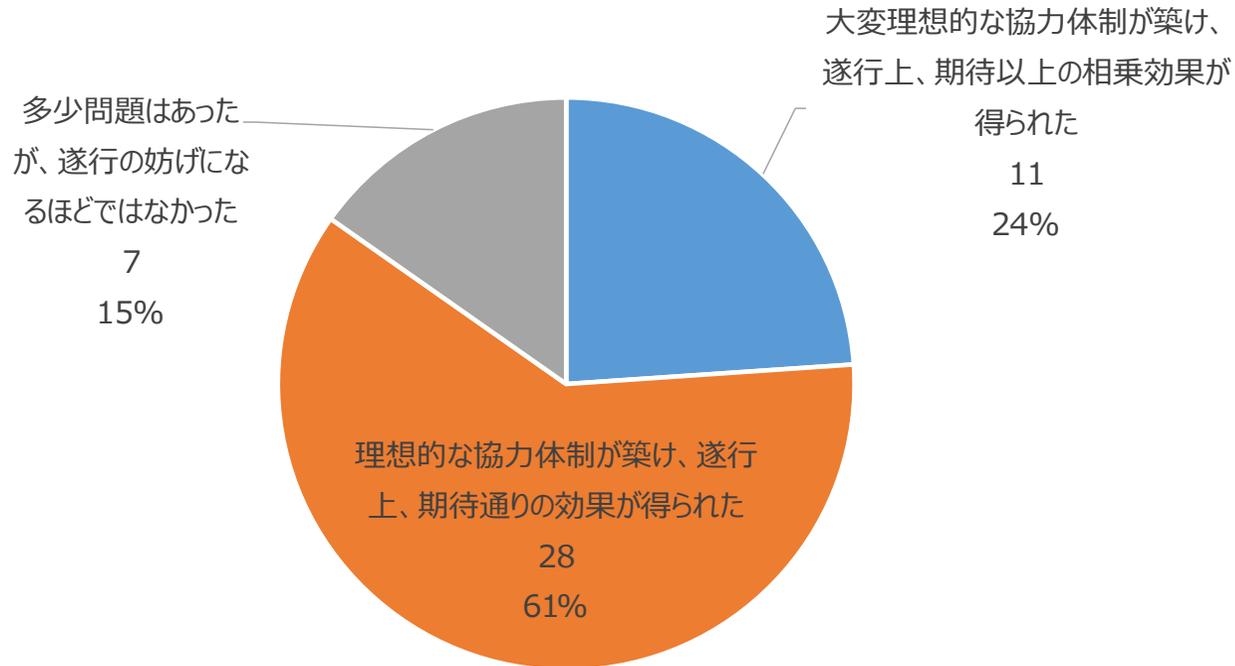
n=140



問20. 助成期間実施中の共同研究者の協力体制について、当てはまるものを選んでください。

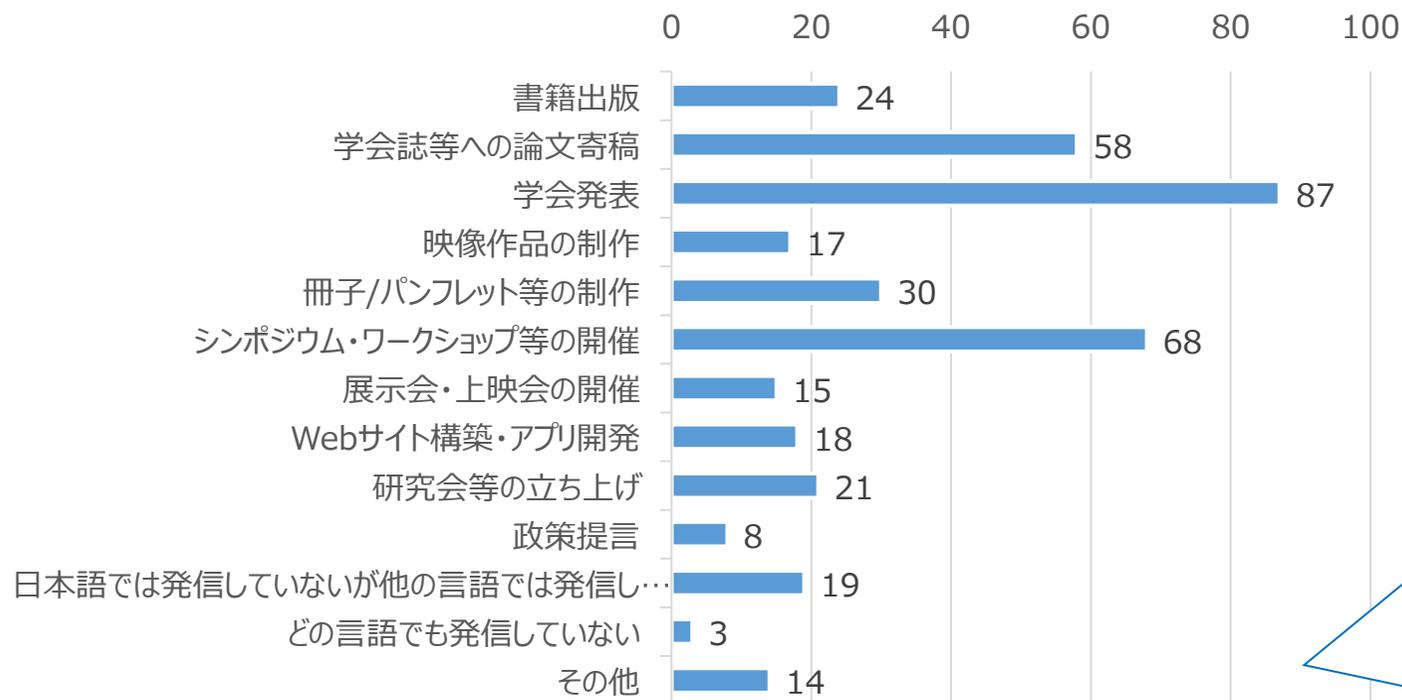
共同研究を実施した研究者の85%が、理想的な協力体制を築け、期待通りまたはそれ以上の効果が得られたと回答している。

n=46



問21. 助成期間を通して、どのような成果発信を行ったか。(日本語での発信、複数回答)

学会で発表した回答者が最も多く、次いでシンポジウム・ワークショップの開催や論文寄稿が続く。

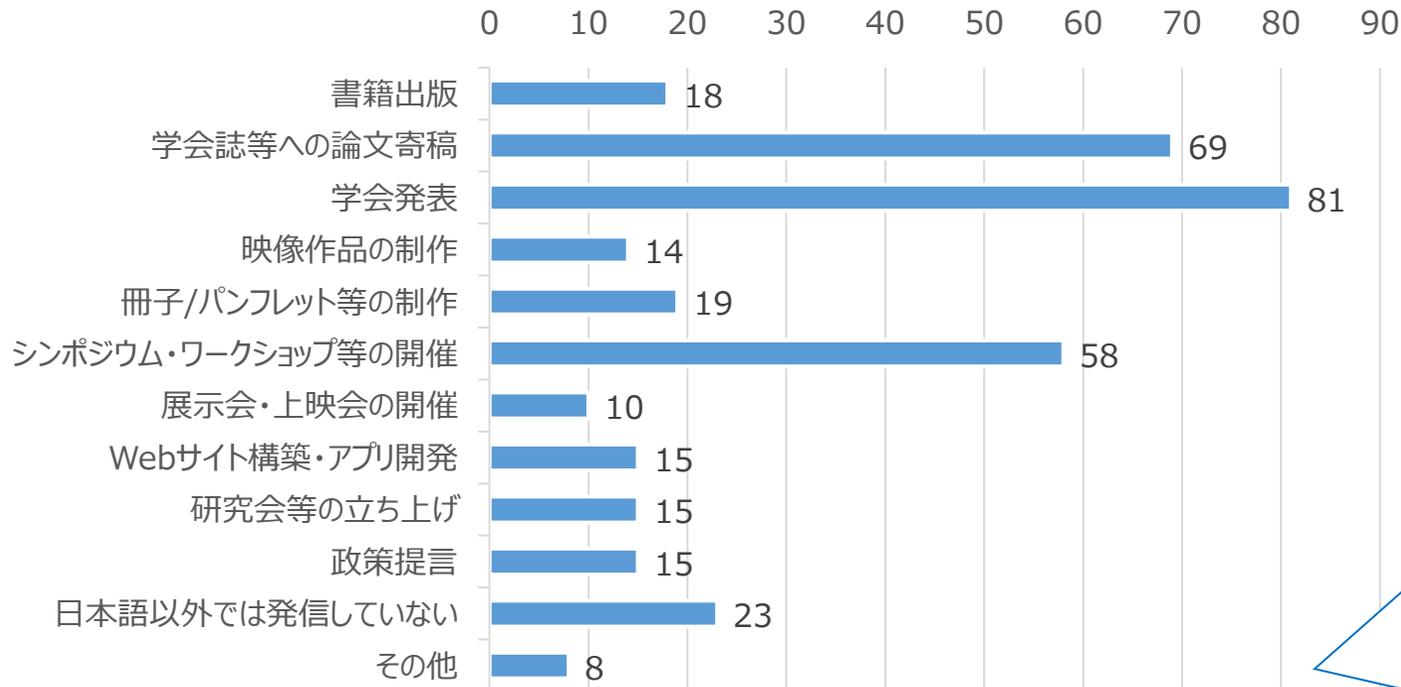


【その他の自由回答】

- ・ 調査データをもととした研究成果（論文、書籍）の発表
- ・ 新聞・雑誌・所内誌への寄稿
- ・ 講演
- ・ 国際協働イベント開催
- ・ NPO・一般社団法人の立ち上げ
- ・ 大使館の草の根事業との連携
- ・ メディアによる取材
- ・ 記録映画作品として公開を予定

問22. 助成期間を通して、どのような成果発信を行ったか。(英語での発信、複数回答)

学会で発表した回答者が最も多く、次いで論文寄稿やシンポジウム・ワークショップの開催が続く。



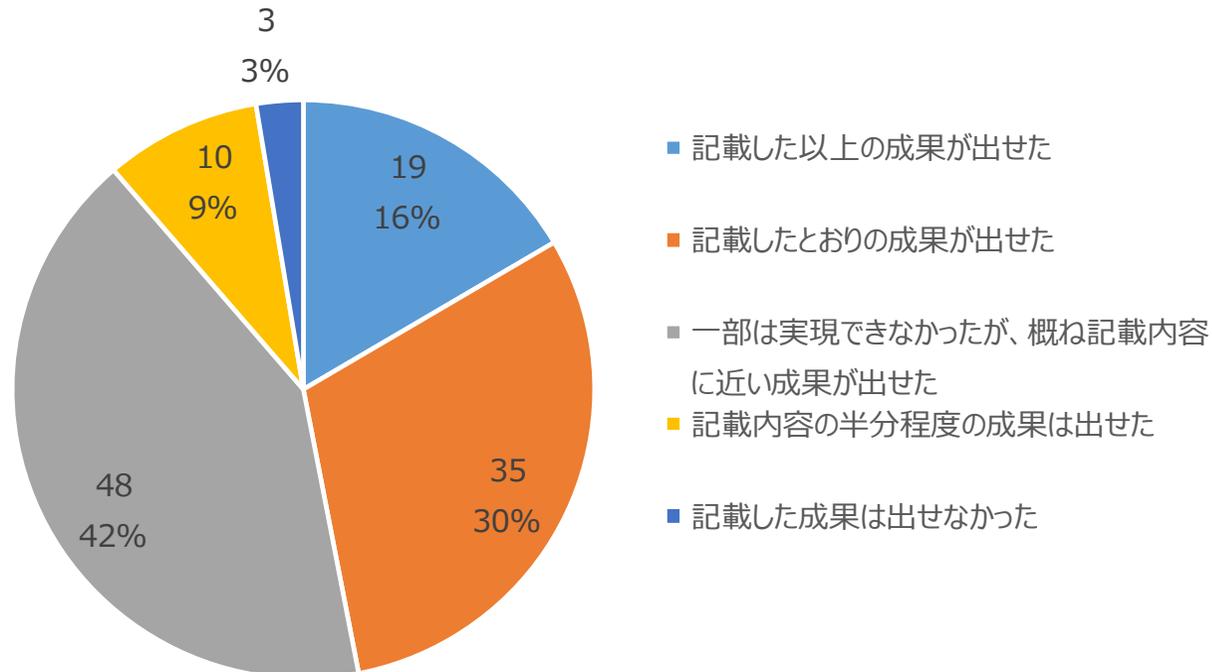
【その他の自由回答】

- 調査データをもととした研究成果（論文、書籍）の発表
- 新聞への寄稿・取材を受けた
- 現地社会、現地の官公庁への還元
- 草の根事業との連携
- ワーキンググループにおける継続成果の発信
- Joining a large collaborative research project (大規模共同研究プロジェクトへの参加)

問23. 企画書の中で記載した「成果と波及効果」について、どの程度実現できたか。

88%の回答者が、概ね記載内容に近い成果かそれ以上の成果を創出した。

n=115



問24. 問23のように回答した理由は何か。：うまくいった点（主に2または3と回答した人）

うまくいった点としてもっとも回答が多かったのは、成果の発信に関するコメント。論文寄稿や書籍の出版に限らず、シンポジウムやワークショップを通じて広く成果を発表できた・現在も継続できているとのこと。

◆ 成果の発信

- うまくいった点は、**WEB会議を頻繁に行って情報を共有**でき、シンポジウムを通じて看護実践者・研究者に成果を広く情報発信できたこと。
- 研究助成の2年間で成果が信頼を受け、その後も**継続して研究、活動、発信が行えている**こと。
- 国立公園内に内在する薬用植物についての**学会誌発表ができ**、また国立公園内の生物多様性維持に貢献している小型生物種を明らかにし、その保全のための国立公園内の整備法について**英文学会誌に掲載され、国立公園側に研究成果を英文で情報提供**できた。
- 出版成果物や**シンポジウム・会議等を計画に沿って遂行**できたから。出版物の編集には時間がかかり、期間の延長が必要になりました。
- 国際ネットワークの構築、**国際シンポジウムの開催、日本語・中国語での書籍化**などを行うことができた
- 研究助成の成果として、『**沖縄現代史**』（中公新書）を刊行することができ、その後、**歴史学に限らない、さらには研究者に限らない、多くの読者を獲得**することができた。
- 論集としての成果発表は考えていなかったが、個人的な関係から有志舎という出版社から「うちから出させてほしい」との依頼を受けて『復興に抗する』というタイトルで**論集が出版**できた。
- **書籍が無事に出版され、採択テーマに即した次の書籍**の企画が進むところまでたどり着いたから。
- 国内だけでなく、世界の研究者や運動との連携が進み、**国内外での政策提言活動**が予想以上に進んだ。
- **publication of journal articles and book chapters as I planned**; I have also developed a Master teaching course based on my research project.
- ワークショップの開催だけでなく、そこから波及させて**書物を出版するに至った**ため。
- The mixture of **academic and non-academic outputs** fit what we proposed.
- We were also able to produce the **largest open community website** of original accounts of the 2011 disasters anywhere.

問24. 問23のように回答した理由は何か。：うまくいった点（主に2または3と回答した人）

ネットワーク構築や、後続研究への発展などを挙げた研究者も多数。また、後続プロジェクトや新たな共同研究への発展などを得た回答者もいた。

◆ ネットワーク構築・強化

- 海外（調査対象国）のNGOスタッフや医療スタッフの協力・連携により研究を実施したことで、**新たな研究ネットワーク（人脈づくり）につながり**、研究助成終了後に本事業の成果をもとに別の大型研究助成の獲得につながったから。
- 既存の人的ネットワークを利用して**密な協力体制が築けた**こと、スケジュールに沿って実行できたため。打ち合わせについては出来るだけ現地で顔を合わせて行うことで、密なコミュニケーションが実現できた。
- ワークショップを通じて**関連する研究に取り組む研究者らとつながりができ、現在でも継続的に研究会や論文の共同執筆を行うことができています。**
- 研究成果を地元新聞の記者が報じてくださったり、元々交友のあった研究者らから講演の機会を頂いたりなど、助成をうける以前のからの交友関係がより良い効果をもたらしたと思われまます。
- 理・美容院からのキーとなる人に出会えた。
- 太平洋諸国に存在する島嶼国（ミクロネシア、マーシャル諸島、キリバス、フィジー）に在る短大あるいは大学との協調が実現し、これらの組織に所属する研究者が研究に主体的に参加したことによる。

◆ 後続研究への発展

- シナジー効果が生まれ、**研究の後続プロジェクトや関連プロジェクトへの波及効果**が大きかった。
- エジプトでの事業であったが、現地における日本人社会の協力という点は、当初は考えていなかった。プロジェクトへの参加を始め、大使館の草の根事業、国際交流基金の招聘事業などへとつながられた。また、プロジェクト終了後の事業の持続性について、計画案には含まれていなかったが、**研究協力者のNGOが中心となり、事業の持続性が担保された**点もうまくいった点である。
- 当初はアメリカでの活動のみを念頭に置いていたが、研究内容を発信するうちに予想以上によい反響を得て、**日本、ドイツ、スペインでの共同研究にも結びつき**、当初予定以上に広がりや深みをもった成果を出すことができた。

問24. 問23のように回答した理由は何か。：うまくいった点（主に2または3と回答した人）

その他の回答は以下の通り。

- ◆その他
- 研究期間内に地域で行ったアクションが、地域の人々の刺激になり、様々な主体的な活動につながっていったため。
- Receiving the grant has path a way for more scholarly works for me such as **being invited to share my experience from the researchers**. The researched area then also became a focus area of studies among students and researchers
- I managed to develop a social listening laboratory.
I managed to work with professionals from very different disciplines (photography, journalism, forensic science, psychology, theater).
I managed to do strengthening processes in listening skills with public servants.
- The achievements of the project could be summarized in five main aspects: 1) Discovery of new archaeological sites; 2) materialization of six archaeological touristic circuits; 3) formation of a group of local guides; 4) Socialization of the main idea of the project; 5) Sustainability of the project.
- The outputs of the funded project are well-received by both clinicians and women with a BRCA genetic change. The outputs of the project are useful in preparing women to communicate with their surgeons at a consultation visit and to make breast cancer preventive decisions.

問24. 問23のように回答した理由は何か。：工夫した点

工夫した点としては、調査協力者の巻き込みや、コミュニケーションの密度に言及している研究者が多い。

- 研究活動を行うに当たり、収集できる資料の限界などから、方向性を変更しなければならない部分も出てきたが、その場合も、**蜜に共同研究同士の連絡をとりあった。**
- Since the project involved group of experts in their areas and continued for the period of two years, naturally new ideas were developed, difficulties arose, contributors came and wend, and we as a team had to follow the flow of development of the project. This lead to slightly different ways of applying the research.
Also, as a University teacher, **I involved a number of students over the two years and that offered an educational aspect of the research project as well.**
- 手法を実施する上で、**調査協力者を十分に吟味し選出した。**調査協力者の選択を誤っていたら、計画通りの成果を得ることはできなかった。この2点が、期待通りの成果を出せた理由であると思う。
- **研究者及び現地住民（支援者）の研究協力体制**の充実。
- 計画していた展示が実現し、その観覧者として想定していた、現地の青少年に実際に見てもらうことができたため。共同研究者以外の現地協力者との連携を深めるため、プロジェクトの趣旨をさまざまな協力者に丁寧に説明する工夫を行った結果、学生が立ち寄りやすい展示開催場所の提供が受けられた。
- コミュニティとの**集中的なコミュニケーションと打ち合わせ**、およびコミュニティや他の利害関係者とのワークショップ開催は、プロジェクトの結果に影響を与えます。
- 研究計画実施の段階に、研究組織に社会的問題が発生し、計画立案時には得られていた**研究への協力を受けることが困難となった。そのため、研究の背景や骨子を活かしながら、研究計画を修正し、研究を実施**した。論文としては、研究成果をまとめることができた。しかしながら、研究計画の変更に伴い、対象者が変更になったため、対象者に則した学会に投稿したが、当該学会がインタビューデータを質的に分析する研究方法を一般的に採用していないことから、研究方法の再検討を求められた。

問24. 問23のように回答した理由は何か。：うまくいかなかった点（主に4または5と回答した人）

うまくいかなかった要因として、ステークホルダーの巻き込みがうまくいかなかったことや、計画時の想定と実際にギャップが生じたことなどが挙げられている。

◆ ステークホルダーの巻き込み

- 現地政府や国際支援機関にもっと大きな関心を持ってもらえるものとしたかった
- 当該研究の必要性について、**地域の方々の理解と協力を得るのに時間と労力を要した。**
- 単に活動を実施しそれを地域に還元するだけでなく、活動の対象とした集落内において、我々の活動を通して得た知見や史料、写真などのアーカイブを積極的に活用してもらうことを目指していたが、そこまでは至らなかった。やはり、復興の途上にあつたなかで、そうした余裕が地域サイドになかったことが一因として考えられる。

◆ 計画時の想定とのギャップ

- 逆に当初の予定よりもうまく行かなかったのは、インターネット上のバーチャル博物館だった。その理由は**想定以上に手間と時間がかかることが分かった**ためである。また、**地域住民がインターネットにアクセスできる手段がなかった**のも問題であった。ただし、アフリカの地方では急速にスマートフォンが普及しており、この問題は近い将来に解消されるかもしれない。
- 調査対象の選定や時間的な制約に関する事前の見通しと実際の調査状況との間にある程度のギャップが生じたため。ギャップ自体は当初から想定できたが、ギャップの内容やその具体的な影響までは十二分に把握できなかった。異言語の海外の事例を対象としたこともその一因として考えられる。なお、こうした目論見通りにいかないギャップはフィールド調査につきものであるばかりでなく、まさにこういった現実こそがフィールドのリアリティを取り出す意義と不可分であることに触れておきたい。

◆ 治安の悪化・新型コロナウイルスの影響などによる計画変更

- 調査対象内にあるガザ地区で、**大規模な武力衝突が起こり、定期的な訪問・調査が困難**となり、さらに本研究者が勤めるNGOでの緊急支援活動が多忙となった。また、イスラム系慈善団体はイスラエルからの攻撃対象になりやすく、そうした団体とコンタクトを取り、詳細な情報（特に定量データ）を得ることが難しくなったため。（治安の悪化に関するコメントは複数あり）
- 自身の産休および**新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学会等発表の場が得られず**、特に研究成果の価値についての評価および助言を得られなかった。
- due to corona outbreak limitations
- リーマンショックからの回復期に研究計画を立てて、その後に東日本大震災が起きた。研究実施期間中は、震災後の経済復興の時期であったが、**復興のスピードが思ったものとは違ったこと、また、震災によって労働力需要が大きく変わったこと**もあり、前提としていた条件が変わってしまったためである。しかし、新たな状況にあった、研究の方向性に修正したので、当初思っていたものとは違ったが、新しい社会環境の元での適切な回答に達することができたと考えている。

問24. 問23のように回答した理由は何か。：うまくいかなかった点（主に4または5と回答した人）

うまくいかなかった点として、時間軸（期間中に成果を出せなかった）を上げている研究者も複数存在する。また、成果発信面で一部想定していた成果が出せなかったという回答もあった。

◆ 時間軸の問題

- エイジングを支える仕組みの担い手としての援助職や、性的マイノリティ当事者への情報発信・普及という面では計画通りに行えたと思うが、そのどちらにも当てはまらない人々への**情報の届け方を模索しているあいだに助成期間が終了**してしまった。
- 計画書で「実施する」と記載した内容については、小さな変更はありましたが、ほぼすべて実施しました。一方、「成果と波及効果」の欄には、助成終了後も長い時間をかけて展開していく内容まで記載したため、現時点でどの程度達成できたかと問われると、半分もできていないという状況です。
- 小学生を主体としたデータ収集や実験への試みは当初の予定よりも活動が広がったので、予想以上の成果だったと思う。しかし、その**データの妥当性を十分に吟味する時間がなかった**。また、小学生の限られた時間の中で、レギュラーの授業などの折り合いの付け方も試行錯誤が続き、担任には多大なご苦労を掛けてしまった。持続的に活動ができればと期待していたが、小学生、特に担当していただく方へのコストが多大であり、うまくいかなかった。
- アーカイブ化の途中までは努力したが、**期間が短く、途中で助成金を返還せねばならず、達成できなかった**。
- **書籍出版は学術書となると出版まで時間がかかるので、助成期間内には出版できなかった**。冊子やブックレット等簡単に出版できるものをまず先に公開した方がよかったかもしれないと考えている。

◆ 成果発信

- 学術的、政策提言的な面は実現できたが、**広く一般市民に研究結果を発信することはできなかった**。財団の方のお知恵を乞うべきだったと反省している。
- 調査を通して当初想定していたものをはるかに超える膨大な量の資料を収集することができたため、その**アーカイブを構築し、広く公開するところまでは至らなかった**。
- ウェブサイトや展示会などを行いたいのはやまやまだが、**学術界では実績としては出版物に重きがおかれているために、出版物以外の形で発表することは（とりわけ期限付きとして雇用されているものとしては）できなかった**。

◆ その他

- 予算の対象範囲を明確に理解できておらず、経費として認められないものがあるが概ね実施できた。
- その後の展開のリサーチプランを示し、研究活動を切れ目なく継続することを目指したが、外部資金の獲得ができなかったため、その後は分散したり、規模を縮小したりしての研究活動の継続となってしまった。
- プロジェクト終了後に越境協働や対話を継続することの難しさ。
- 研究成果をより増大化するためには、研究の持続性が必要だった。個人的には、安定的な研究職を維持することができなかったのも研究成果を拡大できなかった点である。
- インフォーマントが緊急対応を求められることが多い仕事の関係者だったので、調査を何度も仕切り直す必要があったから。
- 本研究を遂行するプロセスのなかで、地域住民と研究者自身が相互に変容するというシナリオを描いていたが、十分に達成されたとは言い難い。フィールド研究が、週末や夏季休暇などの特定の時期に集中せざるをえなかったことも一因である。

問25. (問23で選択肢1と回答した方に対し、) 記載した以上の成果とは、どのようなものか。(1/2)

新たなコミュニティの創出・拡大や一般市民の参加を獲得した点に関するコメントが複数あがっている。そのほか、ネットワーク構築や自身の活動の拡大、人材育成面での成果が得られたとの回答。

◆コミュニティの創出・拡大、一般市民の参加

- 特に、**女性を中心としたコミュニティがこのプロジェクトによって生まれ、それが今だに持続している**点である。彼女たちは、バイトヤカン（プロジェクト開催場所）に集まり、自身の生活レベルをアップさせるような手芸等を学ぶことを続けている。当初は、金銭的な満足のためだったかもしれないが、集まって会話することや共同することが、彼女たちを変えていったことが、彼女たちの目の輝きや微笑みなど、端々から汲み取ることができる。
- 当研究**プロジェクト終了後も、参加したコミュニティ内で、文化遺産の保存についてさらに新たな取り組みが話し合われ、継続が期待**できる。また考古学チーム内、さらにスーダン考古学会においても、当プロジェクトが好評価され、**学会全体に対して、コミュニティとの協働していくことの重要性を訴えることができた**。
- We were **able to make better contact with the local populations** and secure their trust to increase the numbers of interviews.
- The unexpected findings were about **peoples' participation** in forest conservation and values of peat land forests to community

◆ネットワーク構築

- 本来予定していた数よりも多くの国で事例研究が実施出来た**。また、そのような国にある教育機関に所属する**研究者の参加が得られた**。また、当初は想定していなかった数量解析による分析も実施することが出来た。

◆研究者自身の活動の拡大

- 研究対象である伝統芸能の世界からの信頼が高まり、**国（文化庁）の研究調査にも専門家委員として、関わるようになったこと**。
- Recognition that comes along as recipient of The Toyota Foundation Grant

◆人材育成

- the research results have contributed to the national park's data where the research was conducted. A master student followed up the research results right after the funded research with more detailed and included more aspects, published a journal paper and graduated.

問25. (問23で選択肢1と回答した方に対し、) 記載した以上の成果とは、どのようなものか。(2/2)

もっとも多かった回答は、論文寄稿や書籍化の実現に関するコメント。そのほか、プロジェクトの取り組みが博物館の年間行事として継続的に実施されるようになったとの回答もあった。

◆寄稿・書籍化の実現など

- **国際的ネットワークの構築、国際シンポジウムの開催、日本語・中国語での書籍化**などを行った。
- 出版した書籍は、専門書であるがすぐに増刷され予定より多くの人々に読んでもらった。日本全国の事例を比較することができ、海外との具体的な比較研究も進んだ。
- 『復興に抗する』(2013年、有志舎)
- 一つは、学術研究助成基金助成金を受け取っている間に、**著書を発刊できた**ことである。そして、**その著書をきっかけの一つとして社会的金融機関を日本につくる取り組みがなされ**、2018年に日本で初めて第一勧業信用組合がGABV (The Global Alliance for Banking on Values) に加盟することになったことがもう一つの想像以上の成果である。
- 研究会の開催、学術雑誌に研究会メンバーらと特集号として論文を寄稿した
- 日本、アメリカ、ドイツ、スペインでの**学会発表、公開セミナー、ワークショップ**を経て、**その成果を学会誌や学術書籍の形で公にできた**。
- 出版した書物はワークショップに参加したインドネシア人研究者の児童婚についての研究を集め、それを共編し、12章からなるインドネシア各地の児童婚の状況や原因がよくわかる本となっており、**UNICEFなど児童婚問題に取り組む人権団体にも有用なものとなっている**。

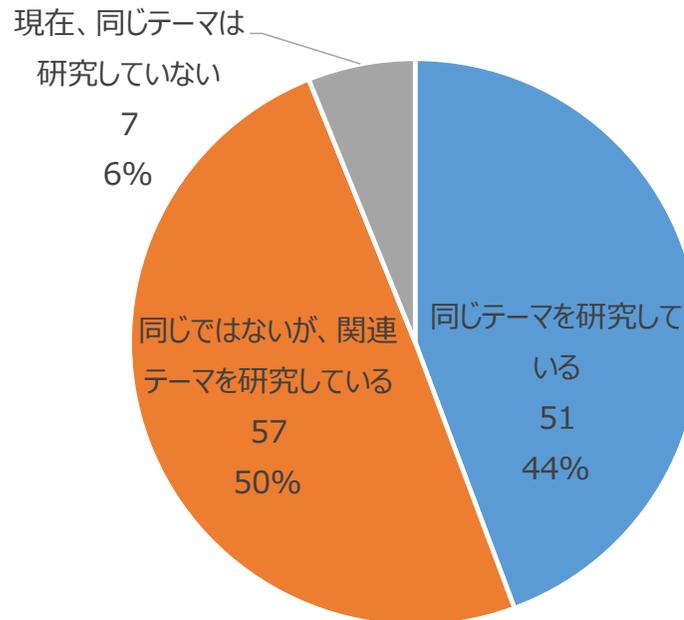
◆その他

- **プロジェクトで実施した取り組みが地元の博物館の年間行事として行われることが決定し**、当該地域にある国立博物館と地方自治体の予算において現在も継続されていること。
- **地域の主体性の向上と具体的なアクション**に結びついた。

問26.助成を受けたプロジェクトテーマを、現在まで継続して研究しているか。

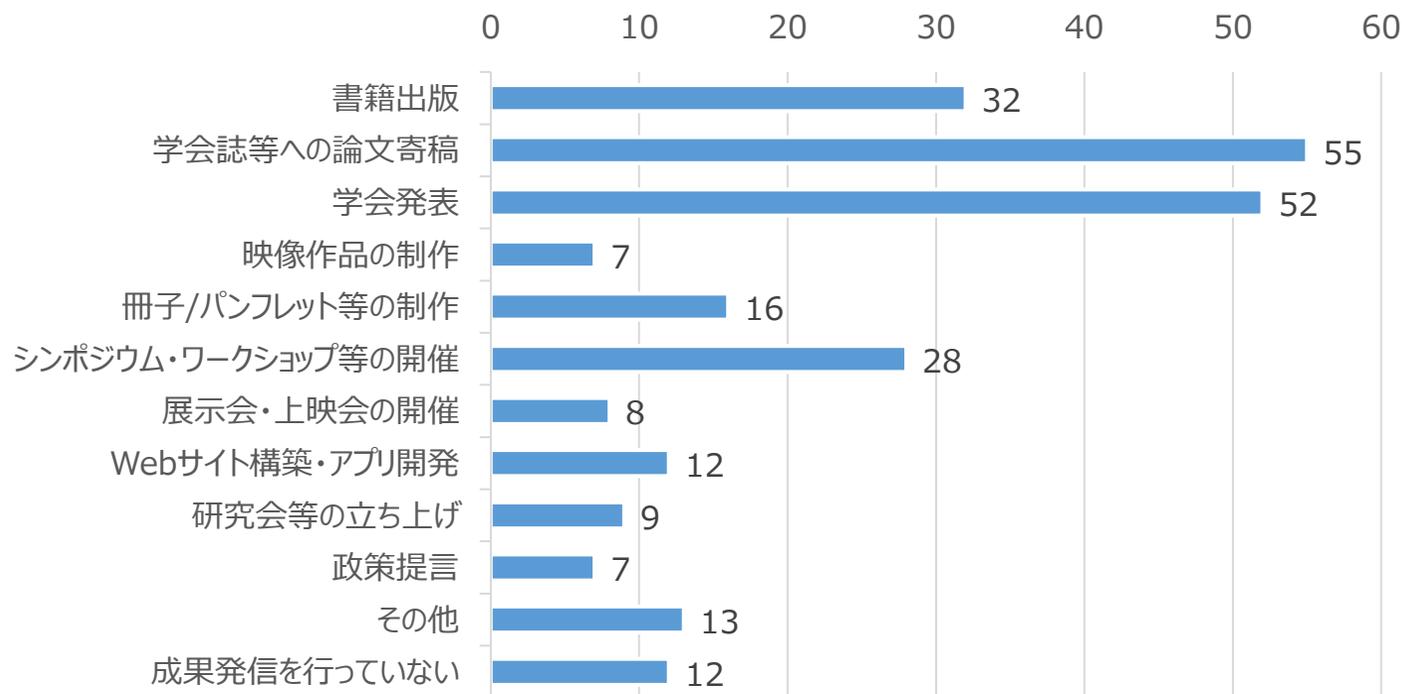
94%の回答者が、同じあるいは関連するテーマを継続的に研究している。

n=115



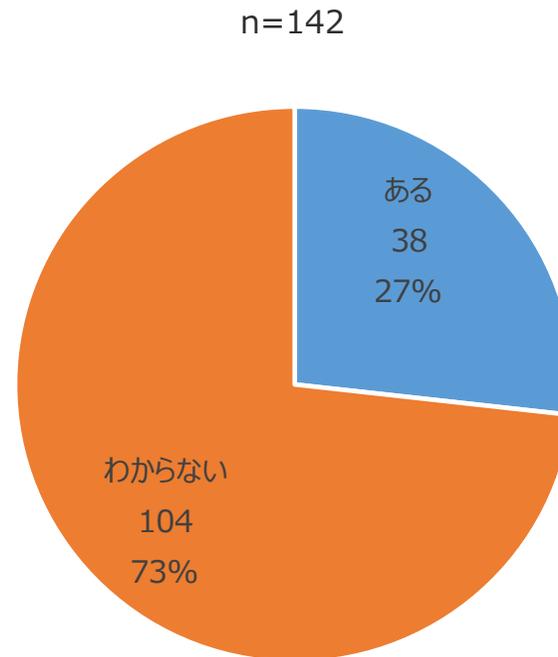
問27. 助成を受けたプロジェクトテーマに関して、助成終了後、何らかの形で成果発信を行ったことがある場合、手法は何か。

助成後の情報発信形態として最も多いのは論文寄稿であり、次いで多いのが、学会発表である。



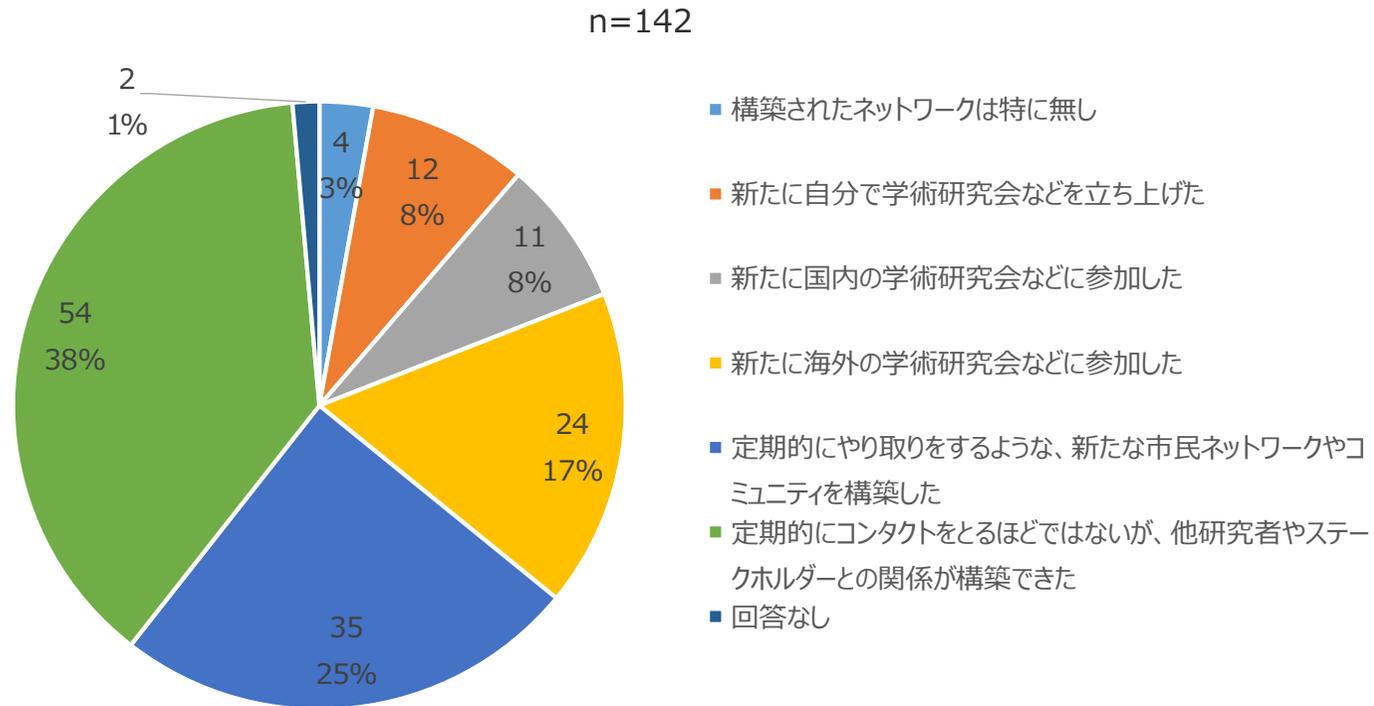
問30. 助成を受けたプロジェクトテーマの論文等成果物が引用されたことがある場合、被引用数を記載すること。

73%の回答者が、引用の有無や回数に関しては、「わからない」と回答した。



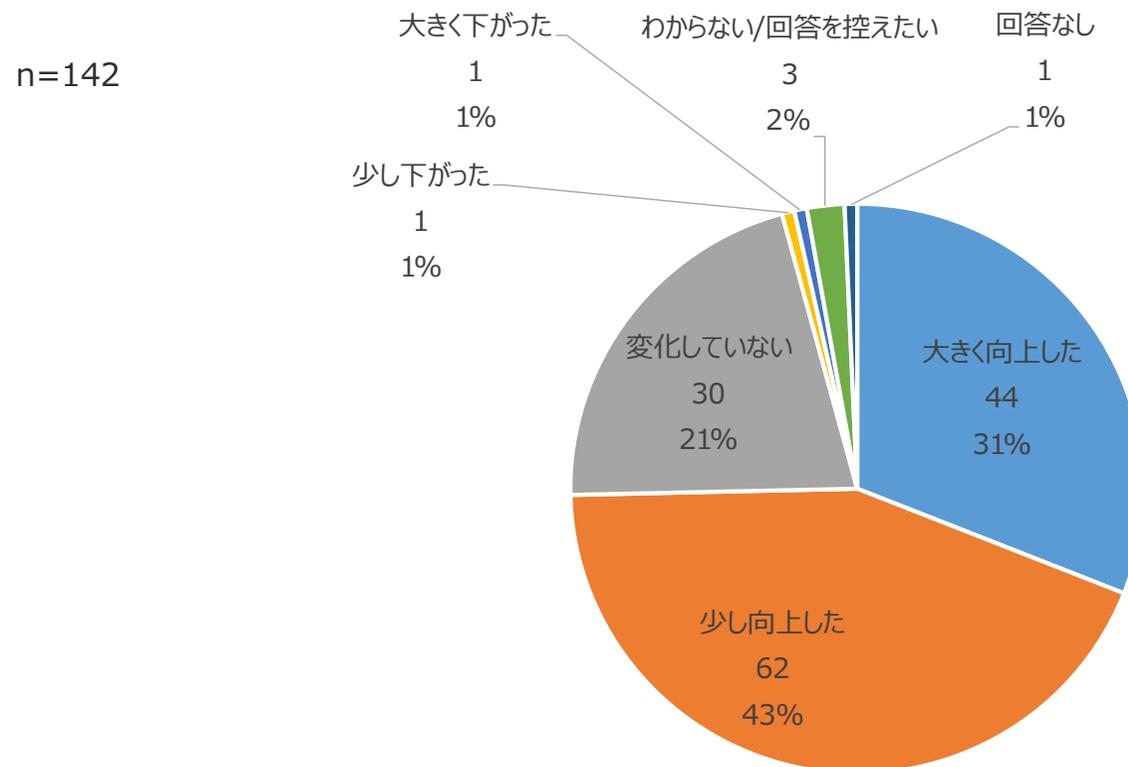
問31. 助成を受けたことで、プロジェクトテーマに関して、新たに交流やネットワークが構築されたか。

他の研究者、ステークホルダー、市民ネットワークとの緩やかな社会資本ネットワークを確立した回答者が6割以上であった。



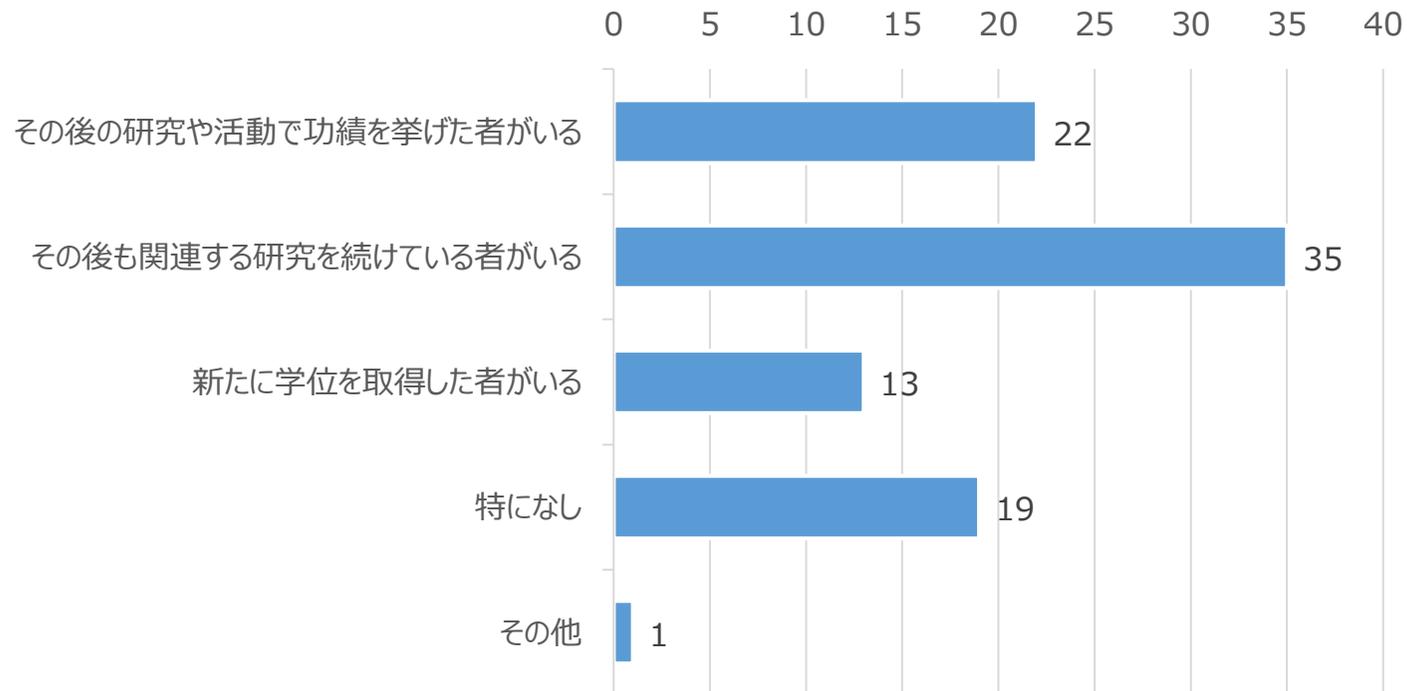
問32.学会や職場などにおけるあなたのポジション（役職・役割）は助成前と比べてどのように変化したか。

74%の回答者の学会や職場におけるポジションが向上した。



問33.代表者以外で、この助成を受けたプロジェクトに参加・協力することにより、成長した大学院生などの若手研究者はいるか。

助成プロジェクトに参加した大学院生などの若手研究者の多くは、研究における功績を挙げ、研究を継続している。



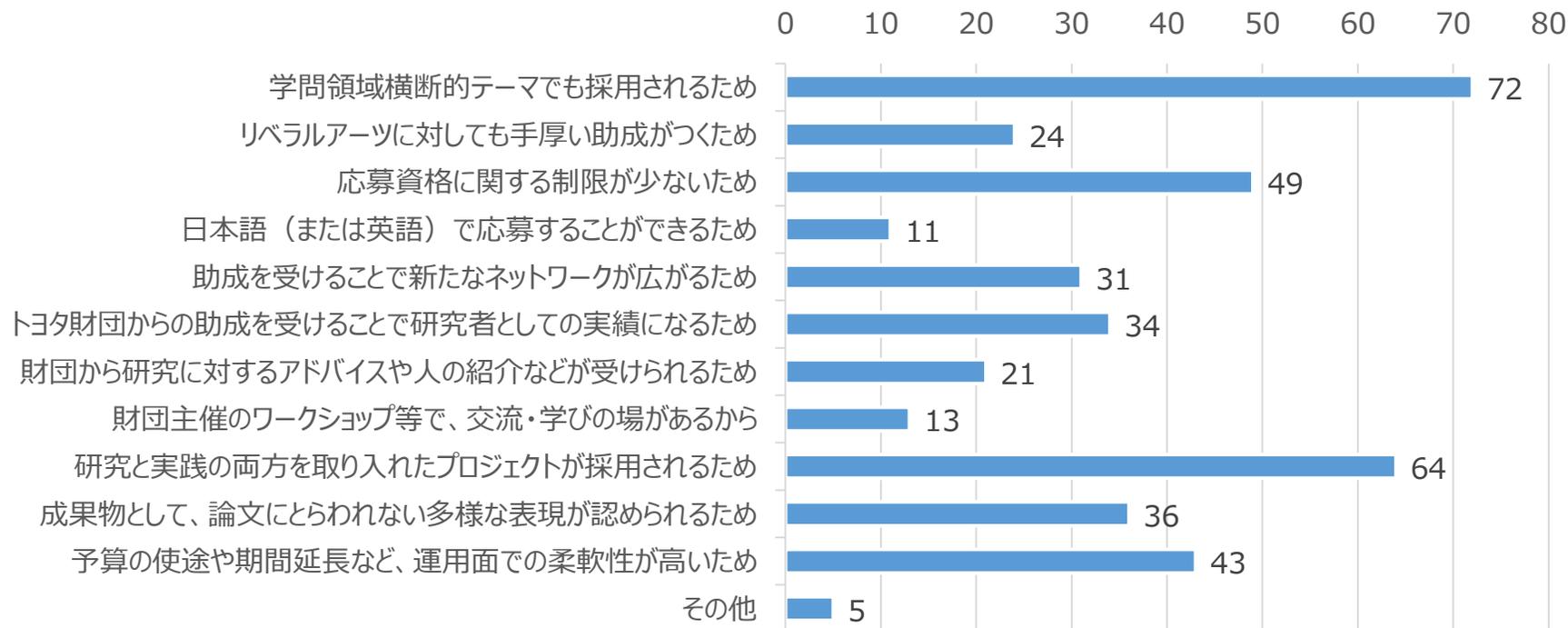
集計結果：プログラムに対する評価

既存の学術分野や学術的な成果に囚われないプロジェクトへの助成（間口の広さ）、貴財団からのプログラム中の助言・支援（財団からのサポート）、運用面の使いやすさ（柔軟性の高さ）が高評価を受けている。

- 学術横断的テーマでも採用されること、研究と実践の両方を取り入れたプロジェクトが採用されること、応募資格に関する制限が少ないことが、本プログラムの代表的な利点であることがわかった。【質問34】
- 既存の学問領域にとらわれない幅広い研究分野、国際共同研究、学際的な研究へ助成していることや、多様な人材に門戸を開いていることが期待されている。他方、研究テーマの絞り込みは希望されていない。【質問35】
- 社会コミュニケーションプログラムは、プログラム自体を知らない、あるいは活用の仕方がわからない回答者が過半数を占めた。活用していない回答者とあわせると、全体の70%に上る。【質問37】
- ほぼすべての研究者が本プログラムに満足している。【質問38】
- 学術的な成果に囚われず、社会が必要としている革新的あるいは実践的な研究を多様に採択している点を、評価するコメントが寄せられた。【質問39自由回答】
- 財団のプログラムオフィサーからの助言を評価する声は多数寄せられた。特に、回答者は、研究中の課題解決において助言を受けた点を評価している。【質問39自由回答】
- 助成金の運用に関する柔軟性が高いことを評価するコメントが多い。他方、経費申請の方法については、改善の余地がある。【質問39自由回答】

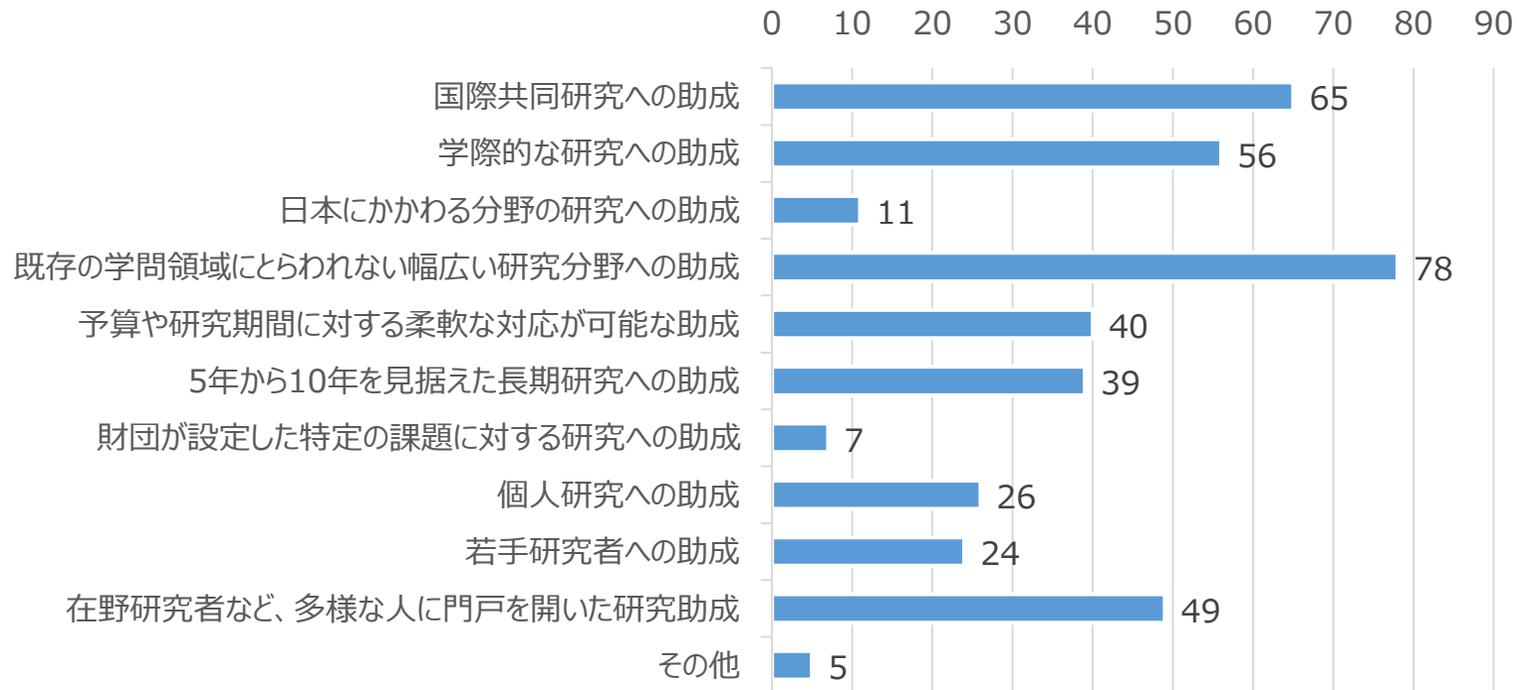
問34.当財団の研究助成プログラムのよいところはどこか。最も当てはまるものを3つまで選択すること。

学術横断的テーマでも採用されること、研究と実践の両方を取り入れたプロジェクトが採用されること、応募資格に関する制限が少ないことが、本プログラムの代表的な利点であることがわかった。



問35.当財団の研究助成として、どのような分野や特性があることが望ましいか。

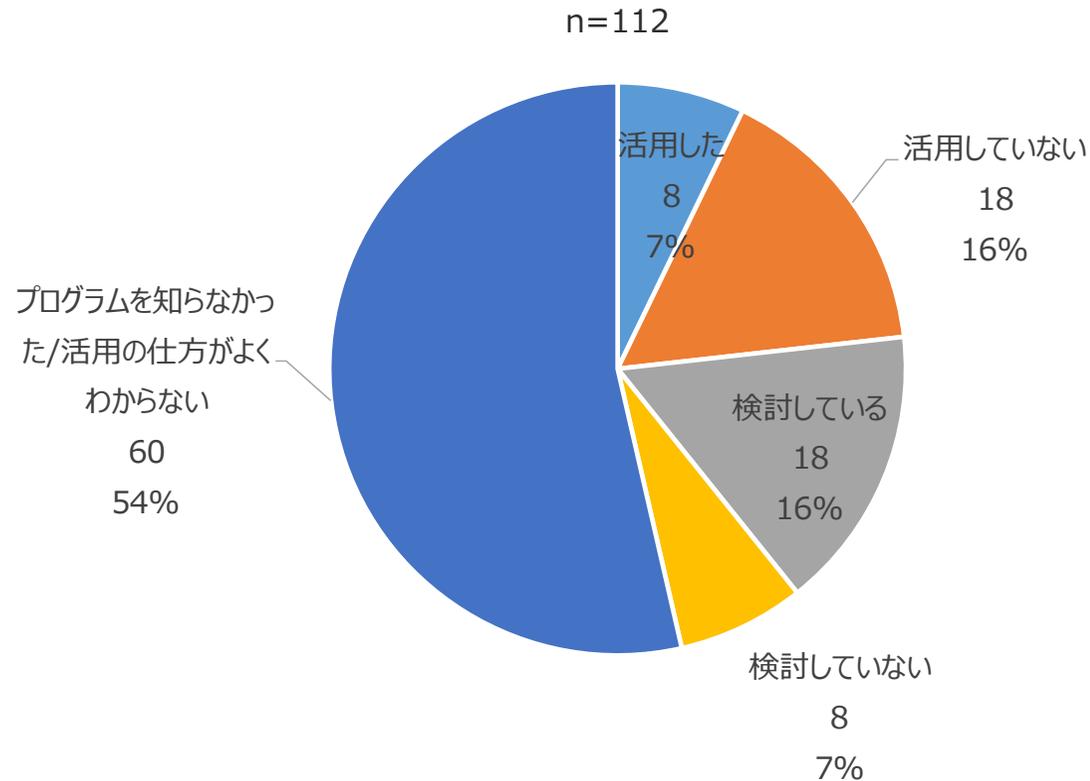
既存の学問領域にとらわれない幅広い研究分野、国際共同研究、学際的な研究へ助成していることや、多様な人材に門戸を開いていることが期待されている。他方、研究テーマの絞り込みは希望されていない。



※最大回答数：3つの選択肢まで

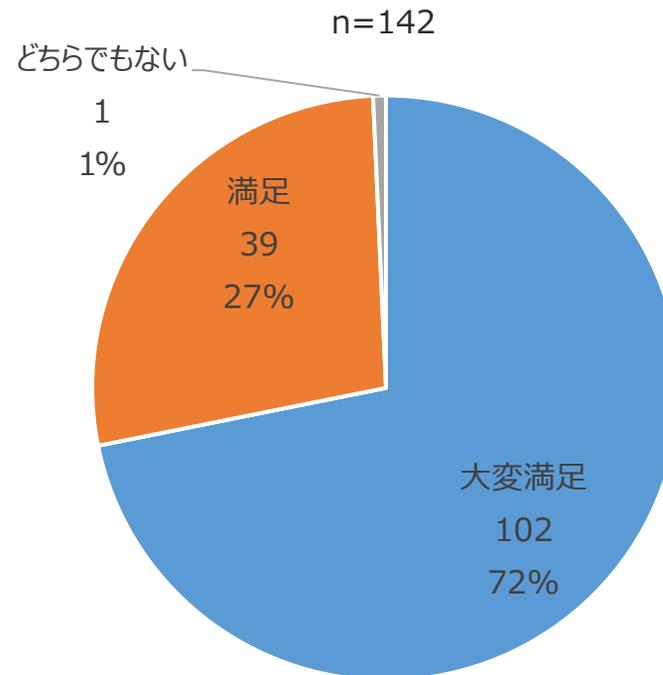
問37.当財団の「社会コミュニケーションプログラム」を活用して成果発信をしたか、あるいは検討したか。

社会コミュニケーションプログラムは、プログラム自体を知らない、あるいは活用の仕方がわからない回答者が過半数を占めた。活用していない回答者とあわせると、全体の70%に上る。



問38.当財団の研究助成プログラムについて、総じての満足度は。

1名を除き、ほぼ全員がプログラムに満足している。

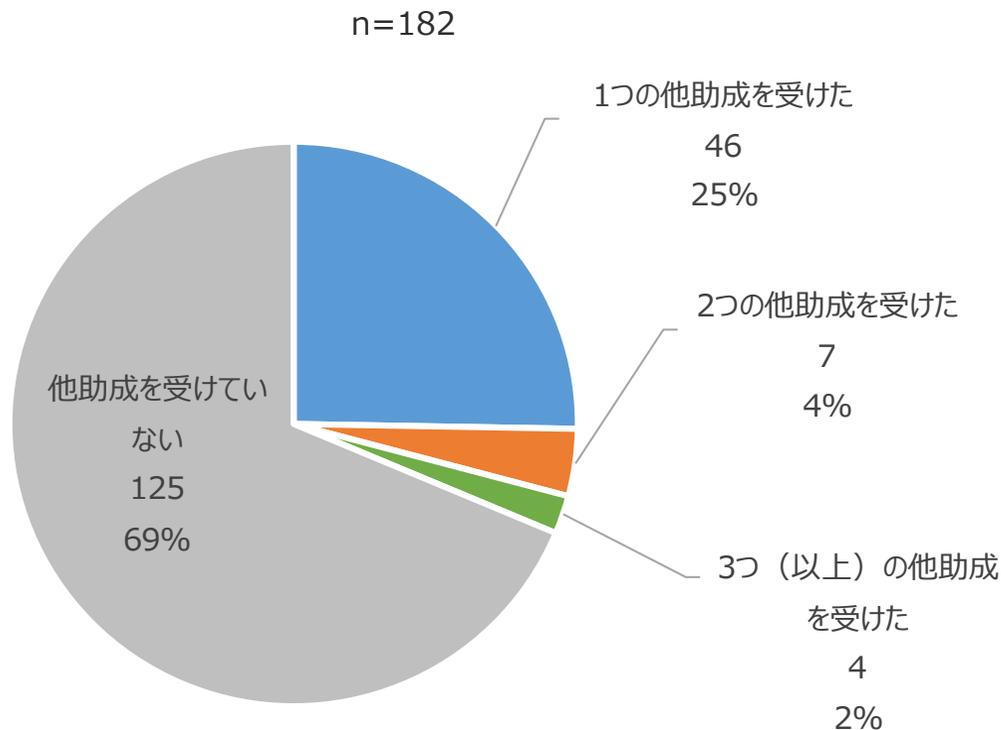


2. 調査結果

- 2-1. 総括
- 2-2. 定量回答結果
- 2-3. 定性回答結果

別の助成金・補助金活用状況（問9. 助成期間中）

助成期間中に他機関から1つ以上の助成金・補助金を受けたのは全体の4分の1にあたる57名（うち、7名は2つ、他4名は3つの助成金・補助金を受けている。）57名のうち、22名は日本学術振興会からの科学研究費補助金等を受けている。



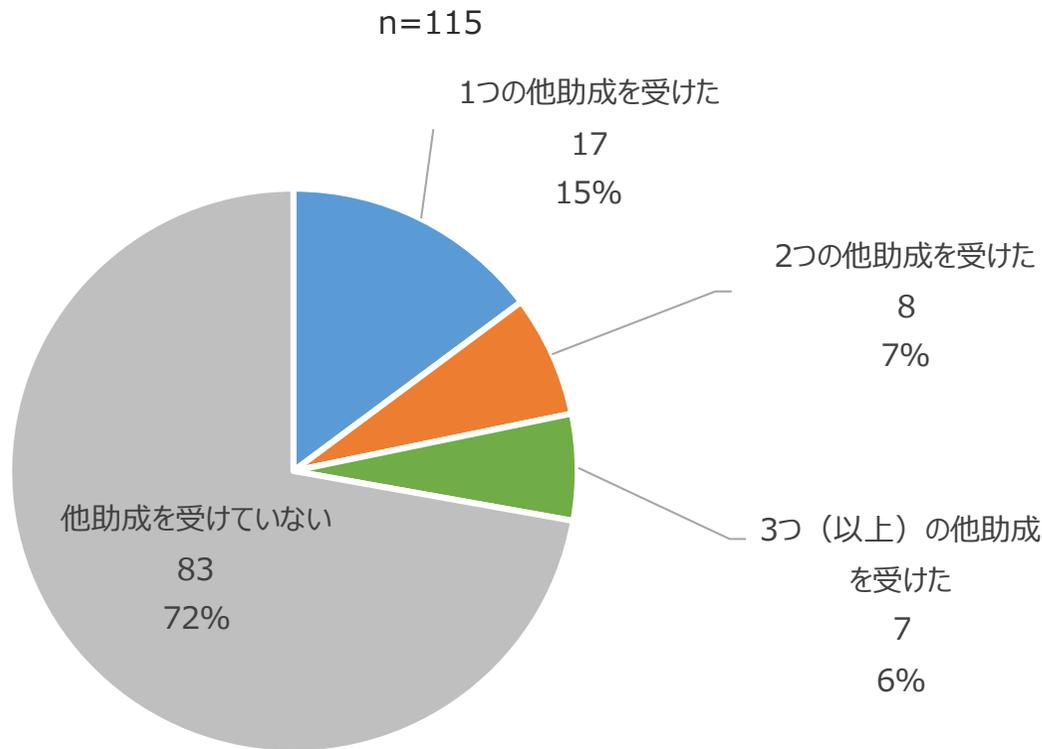
当プログラム助成者が助成期間中に活用した他の助成金・補助金の提供者

- 科学研究費補助金（文部科学省・学術振興会）
- 内閣府（管理機関はJST）
- 文部科学省
- Local government
- Malaysian Ministry of Education
- Australian Government Medical Research Future Fund
- Singapore Ministry of Education
- Australian Research Council
- Institute for the Study of International Development
- National Geographic Society
- 横浜学術教育振興財団
- 人間文化研究機構
- 澁澤民族学振興基金
- 公益信託澁澤民族学振興基金
- 公益財団法人鹿島学術振興財団
- 工房ギャレット
- 国際農林水産業研究センター
- サントリー文化財団
- クリタ水・環境科学振興財団
- 嗜好品文化研究会
- 松下幸之助記念財団
- 公益財団法人ユニバール財団
- 住総研2016年度研究・実践助成
- 静岡県立大学
- Indian School of Business
- Pew Charitable Fund
- Secretaría de Políticas Universitarias (Argentina)
- FONCyT (Argentina)

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

別の助成金・補助金活用状況（問28. 助成終了後）

助成終了後に他機関から1つ以上の助成金・補助金を受けたのは全体の15%にあたる32名（うち、8名は2つ、他7名は3つの助成金・補助金を受けている。32名のうち、12名回は日本学術振興会からの科学研究費補助金等を受けているほか、貴財団、政府系機関からの助成を受けた事例も複数ある。



当プログラム助成者が助成終了後に活用した他の助成金・補助金の提供者

- ・ トヨタ財団
- ・ 科学研究費補助金（文部科学省・学術振興会）
- ・ 安倍フェローシップ・プログラム
- ・ Japanese Ministry of Education
- ・ Ministry of Education, Republic of Korea
- ・ Ministry of Natural Resources, Malaysia
- ・ Malaysia Ministry of Higher Education
- ・ 独立行政法人環境再生保全機構
- ・ 江頭ホスピタリティ事業振興財団研究開発助成
- ・ 公益財団法人 平和中島財団
- ・ 公益財団法人日本生命財団
- ・ ユニバーサル財団
- ・ 山田科学財団
- ・ 三菱財団
- ・ 三井住友信託銀行公益信託グループ
- ・ 公益信託地球環境日本基（※記載ママ）
- ・ JSPS
- ・ Big Cat Rescue
- ・ Alexander von Humboldt, Germany
- ・ Instituto Francés de Estudios Andinos
- ・ University of Córdoba
- ・ NAFOSTED Vietnam
- ・ CONICET, Argentina
- ・ Kyunghee University
- ・ SUMITOMO

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

別の助成金・補助金活用状況（問36. 並行して検討した、或いは助成を受けたもの）

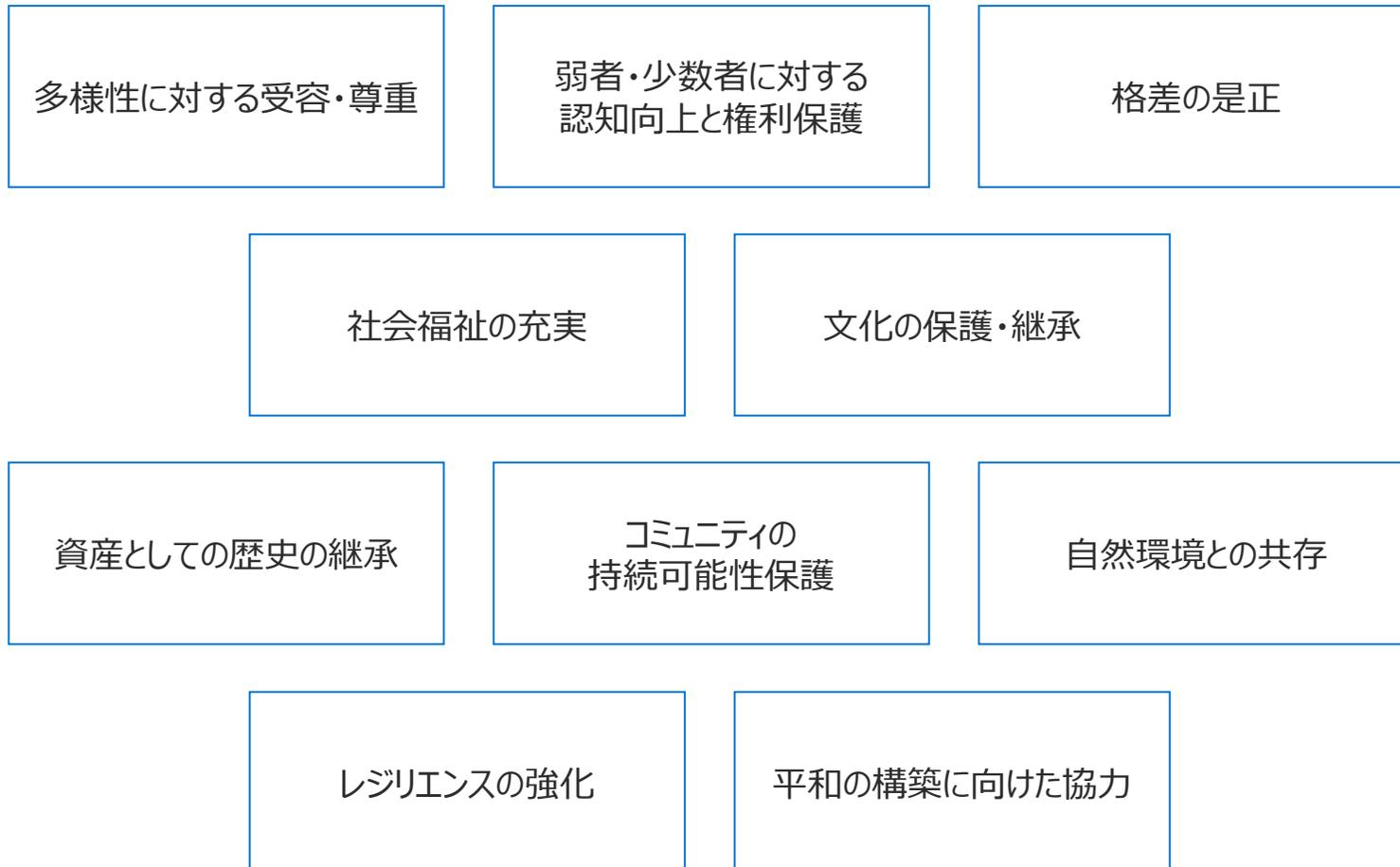
並行して検討した助成プログラムとして最も回答が多いのは日本学術振興会からの科学研究費補助金で12名が回答。

- ◆ 政府・公的機関系
 - 科学研究費補助金（文部科学省・学術振興会）
 - 安倍フェローシップ
 - 環境省第Ⅲ期「環境経済の政策研究」
 - National Geographic Society
 - JST科学技術振興機構 未来社会創造事業

- ◆ 民間系
 - 三菱財団
 - 笹川科学研究助成
 - プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 - 自然保護助成基金
 - 研究助成 公益財団法人鹿島学術振興財団
 - 公益財団法人アサヒグループ学術振興財団学術研究助成
 - 河川整備基金助成事業 河川財団
 - サントリー財団
 - 野村財団国際交流助成
 - クリタ・水環境科学振興財団学術研究助成
 - NAFOSTED Foundation
 - Malaysia FRGS
 - ユニバーサル財団研究助成
 - タカラ・ハーモニストファンド助成 宝酒造
 - ユニバーサル財団研究助成
 - Brennan Foundation PROGRAM IN SUPPORT OF ARCHAEOLOGICAL FIELD RESEARCH
 - 旅の文化研究所 研究助成
 - 若手研究奨励研究助成 日本生命財団
 - 旭硝子財団
 - FONCyT, Argentina.

問16. プロジェクトを通してめざした「社会の新たな価値」、それに対する「既存の価値」或いは「課題」

定性コメントをまとめると、プログラムを通じて以下のような「社会の新たな価値」が目指された。



問16. 「社会の新たな価値」：多様性に対する受容・尊重

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
少数言語にも一定のステータスを与えて 多様性を維持 する	少数言語をないがしろにしている
多様性との共生 を国の枠組みを超え、東アジアの文脈から越境協働として取り組むこと。	多様性との共生は国の枠組みのなかで（管理と統合として）捉えられてきた。またその主なパラダイムは欧米の経験から引き出されていた。
Living harmoniously with "others"	Enmity
若年代だけでなく、高齢者を含む あらゆる世代においてセクシュアリティやジェンダーにおける多様性 が存在することを認識し、そのような多様性を前提に高齢社会のあり方を議論する・できること	性的マイノリティの高齢者・高齢期が当たり前のものとして認識されておらず、高齢者がシスジェンダー・異性愛であることを暗黙の前提に高齢社会のあり方や課題が議論されてきたこと
出身などの 社会的背景を超えたコミュニティづくり がどこでも日常のなかでできること。	出身や人種、しゃべれる言語による先入観や偏見、コミュニケーションの難しさが課題である。
現在、家族は血縁をベースに形成されている場合が多いが、研究を通して血のつながりを越えた家族を紹介することで、今後、 多様な家族のかたち を受け入れ、血のつながりが無い親子関係に対しても偏見や差別しないことに価値を置く社会の形成をめざした。	今なお、親子関係での血縁を重視する傾向が強みられる。血のつながりを越えた親子、特に精子提供や卵子提供などの生殖医療で形成された親子関係に対して、現在は偏見や差別がみられるが、そうした差別や偏見をなくすためには社会に対してどのような働きかけが必要か。
国民性、文化、伝統に根差した技術進歩、いわば「それぞれの社会にカスタマイズされた」経済発展とその適切な形。（ただし、anti globalizationとは全く異なり、各国がそれぞれ独自の経済発展を遂げつつ、その国固有の条件の下で、望ましい国際関係を形成していくビジョン。）	万国共通、ただ一つの正しい経済発展のあり方。
本企画が追究する「社会の新たな価値」とは、排外主義と国際協調主義の二項対立を脱し、 他文化も自文化同様に尊重 しながら妥協と協同の現実的な可能性を引き出しうる、共有可能な思考・行動様式である。	上記は、とりわけ2016年のアメリカ大統領選以降高まりを見せている、排外主義と国際協調主義の緊張関係に対し、いかにして現実的な打開策を見出すことができるか、という課題に対する取り組みであった。
共生社会では他者との違いの尊重は必須です。しかし違いを認めるだけでは差別を生みかねません。違いはどう生まれ、何に基づいているのか。その理解こそが社会の新たな価値たる ダイバーシティ と考えます。	ダイバーシティはしばしば自分と異なる他者との違いを認めることとして理解されますが、それだけでは自分と違う他者を突き放すことになりかねません。これが本研究が挑んだ既存の価値の一つです。
言語教育は、言語活動によって一人ひとりの アイデンティティを形成 していくことを促すためにある。そのような言語教育を目指すことが社会の新たな価値である。	言語教育とは、目標言語を定め、その目標言語の知識や用途を学習者に教え込むものであるという価値。
「社会における 共生自体に価値を認める こと」と考える。長い歴史の中で現状を捉え・未来を思索し、社会の中で生きる意味を模索し、協力・協働によって新たな人間関係を構築することなどがその尺度となる。	既存の価値観は、物質的・個人的な満足度と深く関連している。人間が生きるためには基本的な生活の確保は重要ながら、精神的な側面を充実させ、社会の中で人々と共に生きる喜びを見出すことが課題となる。

問16. 「社会の新たな価値」：弱者・少数者に対する認知向上と権利保護

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
ベトナムの国立公園に内在する生態系サービスを利用した国立公園の経済的自立と、国立公園内に居住する 少数民族の経済的支援	本プロジェクト前は、国立公園内に内在する生態系サービスをエコツアーにのみ利用していたが、薬用植物等の遺伝資源の持続可能な利用法について提言した。
既存の枠組みには収まりきれない形で 少数者が主張している権利や存在のあり方 をいかに認められるか	国家が自らの都合に合わせて作り出した少数者承認のシステム
移民社会である台湾では、社会構成が複雑、多様化していく状況の中で、 少数者に対する社会的な理解 をより進める姿勢が必要とする。	台湾では、統治者と市民との間に不均衡な力関係があり、政治、経済、社会的な格差が存在していた。1980年代以降、民主化が進んだが、漢族系住民が主流の社会はエスニシティの面において、少数者の存在をかき消した。
これまで「 弱者 」とされてきた者の 隠れたる価値と尊厳 を表出させる。	財力や暴力や権力によって、「弱者」を生み出す。「弱者」のレッテルを貼る。「弱者」を寸断させる。「強者」が総取りする。
Protecting refugees through the practical implementation of international refugee/ human rights laws and norms by civil society organizations.	Refugee protection is mostly defined by the formal institutionalization of international refugee law by state-parties and NGOs are marginalized in the process.
Our project explored how specifically selected picturebooks and other Children's Literature could be used to educate both refugees and locals and help them overcome their differences and live together in a peaceful and harmonious way.	While Children's Literature and picturebooks have existed for a long time, together with integration of refugees issues, these two areas have not been put together in similar previous research and that made our research project and its findings unique.

問16. 「社会の新たな価値」：格差の是正

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
<p>本研究では中国農村部の優れた学校事例、及び台湾の震災復興で生まれた農村部の学校の基礎調査を通して、都市部と農村部における学校間の施設条件・建築空間・教育などの格差是正、多様性・創造性のある教育機会・空間の提供、及び画一的でない地域固有の文化・特徴・生業を取り入れ、震災復興の機会を活かした自由な学校の創造、震災復興の学校再建に関する知見の日本を含め世界各地に応用を目的とした研究を行う。以上の研究により、経済や教育格差に囚われない、災害に対応できる農村部の学校建設で生まれる新たな教育の価値を明らかにする。</p>	<p>経済が急速に発展してきた中国社会では、貧富の差が拡大すると共に、都市部と農村部の教育力・学校施設の格差も大きくなってきている。政策として30年ほど教育改革が行われてきたが、都市部の教育施設・空間の発展は長年停滞している。</p>
<p>地域性による格差を解消する教育の実現</p>	<p>文化機関・教育機関が動かないハコとなってしまっていること</p>
<p>Redistribution, solidarity</p>	<p>Inequalities</p>
<p>The values for society addressed are digital solidarity, data cooperation</p>	<p>solidarity, cooperation, transparency, social justice</p>
<p>本研究では中国の農村部において、民主主義的なプロセスによる、新しい学校のデザイン（建設方式・運営）が、地域・教育格差の是正、災害復興に果たす役割と可能性を検証し、ケースブック・映像作成と評価ワークショップを開催し、実践的提案を行う。これらは、経済や教育格差に囚われない、多様な課題を抱える農村での次世代学校建築モデルの提示、発展途上国での教育の機会均等、災害復興がルーチン化している日本に対する示唆、多様な人々が相互扶助的に共生する「社会の新たな価値」の創出に繋がる。</p>	<p>経済が急速に発展してきた中国社会では、都市部と農村部との間の経済格差が拡大すると共に、教育力・学校施設の格差も大きくなってきている。国の政策として10年ほど農村小中学校の配置再調整が行われたが、多様な問題が発生したため一時停止された。</p>
<p>都市スラムの劣悪な生活環境の改善について、単に、対策と資金の検討を行うのではなく、生活者の行動原理（価値判断基準と意思決定）を理解した上で、制度設計を行うことで、生活者がそれぞれの価値判断に従って行動しているにもかかわらず、自然と都市スラム全体の課題解決につながるような状況を作り出すことを目指しました。都市スラムのような、効果的な環境問題解決のアプローチを新たな価値と考えていました。</p>	<p>都市スラムのような行政サービスや制度による拘束が必ずしもいきたらない環境では、個人個人が最適な行動をとった結果として、環境の悪化が起きている。そして、行政が提供する対策と、生活者の価値判断の間にミスマッチングが起きている。こうした状況を、「課題」と捉えていました。</p>

問16. 「社会の新たな価値」：社会福祉の充実

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
理・美容院を活用して 高齢者がいかに健康に生きられるか を検証した。	
Health and Wellbeing of Older Adults	-
エボラ感染者が社会的弱者にならない社会システムを構築 することにより、エボラ生存者の人権問題を解決すること。	西アフリカにおいて、数年前のエボラ流行のあと、エボラ生存者やその家族が、未だに地域社会の差別や迫害に苦しめられているという問題が顕在化しており、エボラ流行後の疫学調査研究等を遂行する上でも大きな障害の一つになっている。
ハンセン病回復者の貴重な体験を後世に残す、過酷な体験をされた ハンセン病回復者の生きがい を支え平安な死を看取る看護体制を構築する	医療倫理、エンドオブライフケア
災害の長期的な健康影響を鑑みた保健医療体制	災害後の社会的関心は、発災直後に集中し、長期的な健康影響はあまり考慮されていない
自分の尊厳や生活を維持して施設で亡くなりゆくことへの社会的合意と施設のケア提供者の専門性の認識を社会に広げること	
Well-beingを高める ような医療体制	身体的な健康を重視した医療体制
This funded project aims to reduce the risk of breast cancer and improve quality of life for women with a BRCA (BReast CANcer gene) genetic change through a new value of shared decision-making between clinicians and women.	This funded project's new value of shared decision-making is against the existing value of cultural paternalism, whereby women view clinicians as the expert or authority, and are often passive during decision-making.

問16. 「社会の新たな価値」：文化の保護・継承

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
人・土地・文化の有機的な関係性 = リビング・ヘリテージ という文化遺産のありかた	「有形文化遺産／無形文化遺産」という近代的二分法がもたらした負の側面（例：遺跡の観光化による地域住民の疎外、神聖な芸能のステージ化など）
Shared understanding of coexisting religious practices and inculture of Catholics and local non-Catholic people	- The religious fundamentalism - Religious conflicts
Knowledge about culinary and cooking practices in diverse groups in Mozambique	Neo colonial values that disregard local knowlesge about nutrition and culinary in Mozambique
The project was aimed at developing new values: multidisciplinary framework to integrate Native Diaguita Communities, Cultural Heritage protection and exhibition in a high quality profile.	-
当研究では、 文化遺産の維持可能な保護・活用 のために、考古学的な価値と地元の価値を融合する実践的な方法を探究した。考古学の知識と地元の伝統文化、歴史に関する知識を合わせることにより、地元文化遺産の新たな価値を創造することを目指した。具体的には、スーダンのアマラ西遺跡で調査に参加する考古学者と遺跡周辺のコミュニティが協働で、地元児童向けの教育冊子「ヌビア中部の生活文化（原題：Life in the Heart of Nubia）」をまとめた。	考古学は地域の歴史を解き明かす学問でありながら、考古学者が外国調査する際、多くの場合はその研究結果を地域社会に還元してこなかった。また、地域の歴史観や文化、知識が考古学の研究に反映されず、地域社会と学問が別々に存在してきた。そのため、文化遺産の保存をする際にどちらかの知識・価値観に偏った手法がとられてきたため、包括的に遺産の保存ができず、「破壊・損傷」の原因となってきた
研究対象とした地域社会に当研究の重要性を説明し、当該地域住民自身が研究内容を継続して新たな知見を蓄積することで、価値が生まれることをめざした。	それまで無自覚だった当該地域の文化の重要性を新たに周知させた。

問16. 「社会の新たな価値」：資産としての歴史の継承

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
東アジアの「コモンズ」としての 歴史・記憶・思想資源の発掘	東アジア諸国・諸地域間の歴史認識、「アジア」の近代及び植民地主義と冷戦期の脱植民地化における摩擦や軋轢の解消
国境や世代を超えて 戦争の記憶を国際社会の中で継承する 新たなあり方	各国の各地域の中で戦争の記憶をそれぞれ個別に継承する在り方
The value that was emphasized in the project is reconciliation, and in particular the power of using history and historic debate to promote reconciliation.	This project is not against existing values, but it is emphasizing that the way in which history is taught and debated in society is strengthening existing animosities rather than improving reconciliation.
日本は、世界でも珍しい公的皆保険制度をもち、戦後70年あまりで世界有数の長寿を達成しているとともに、超高齢社会であるなど、他に類を見ない保健医療の歴史を有している。 この経験こそが、これからの社会における新たな価値だと考え、国内外、また世代を超えて共有されるべきだと考えた。	-
本プロジェクトで解明することを目指した新しい価値は、過去の津波災害とその後の復興を繰り返し経験することを通して形成された三陸漁村の集落景観が有する知です。	三陸沿岸集落の景観においては、いわゆる伝統的な民家が数多く残されているわけではなく、また文科省のしている文化的景観のようなものがあるわけではないため、必ずしも学術的に研究する価値があるものとは思われていなかったといえます。
日系社会の記憶を日系人が自ら調査・保存・伝承する市民参加型の文化活動は、世代を越えた人間関係や、民族集団や地域への帰属意識や愛着を再活性させ、日系社会の次世代の担い手の育成にも貢献する価値をもつ。	海外の日系社会では高齢化が進み、一世のライフヒストリーや家族史といった市民の記憶が益々失われていき、また若い世代は日系人団体の活動に関心が薄く、日系社会の担い手が減少しているという問題に直面している。

問16. 「社会の新たな価値」：コミュニティの持続可能性保護

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
神社という空間を通して、社会と自然、めぐみとリスク、新旧住民などがまじわり、 持続可能なコミュニティを形成 していくための実践の枠組み。	古くから地域に鎮座する神社も、そのほかの多数の宗教施設のうちのひとつという位置づけ。それによってもともと神社が持っていた多機能性、あるいはコミュニティ性が希薄化している。
地域の内外のネットワークに基づき生成される価値 、ローカルな知識と専門的な知識が融合してできるヴァナキュラーな知識に基づき生成される価値が、社会の新たな価値といえそうです。	都市と農村といった固定化された地域特性によって読み取られる価値、国境により画された単位での価値、グローバルといった一体化される価値でしょうか。
外国に移転した人々が如何にして 移転先のコミュニティーに融合して新たな社会を創設 すること。	外国に移転した人々が自分たちだけで集団を形成して生活し、移転先のコミュニティーとは統合しないこと、および、それに起因する問題。
地域のヒト、モノ、カネ、コトなど多様な「地域資産」に着目し、その地域資産を発掘、連結、循環、蓄積していくことこそ、 地域の持続可能性 につながる、という価値。	地域では、（研究当時）いまだ外来型開発、ハコモノ頼みの開発を志向する傾向にあり、研究対象地域ではそのことで地域の分断が生じていた。ヒト、モノ、カネ、コト（以下これらを「地域資産」と総称する）の流出が続いており、地域資産を生かした活動も、それらの間の連結や循環が弱く、活動が広がっていなかった。
残された小規模な森林を「フィールドミュージアム」とみなすことで、 地域の人々やそこを訪れる人にとっての学びの場、出会いの場として 新たな価値を生み出すことを目指した	「生物多様性保全のための価値」もしくは「研究対象としての価値」だけが保護区としての既存の価値であった
基礎自治体や地域の多様な主体の自治的活動を通して公共圏的空間という場が創出される。その過程で自治体や地域の過去が問い直され、未来に向けた再生の道筋が展望されるという社会の捉え方。	少子高齢化は抗いがたく、自治体・地域の閉塞感、出生率の回復や定住人口の増加、また財政基盤の安定等の条件が整って初めて打破できるという社会の捉え方
古くて新しい 地域経済循環 の評価手法の確立と概念の普及	地域活性化事業の目的と手段がずれている
Self-management with support from the community system	""Let things flow naturally""

問16. 「社会の新たな価値」：自然環境との共存

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
私たちのプロジェクトでの社会の新たな価値は一つの自然資源が以前無視されていたが改善と社会の 環境意識を高める と社会の大切な場所のなります。	自然資源を美しくして社会の環境意識を高めます。
1. 環境問題の解決 のための国際協力と地域多様性の尊重 2. 環境保全 への住民の妥協的な参加からの脱出	1. 環境問題を解決するためには、国際協力と地域多様性の尊重が必要である。 2. 地域の環境保全に関しては、住民の妥協的な参加が少ない。
ため池の生物多様性を将来にわたって保全 していく上で、生物の希少種のみならず「環境要因を把握・保全・再生していく」という新たな視点が生まれるとともに、理論上、地図上で明示される全てのため池の環境予測・評価が可能になる	ため池は全国に約20万個あるとされ、生物調査および希少種の有無による評価は膨大な時間と労力が伴い、個々のため池の保全・再生策の立案が困難である。また未調査のため池は生物多様性保全上無価値と評価される
Produce the clean agricultural products (vegetables and rice) by using the bio-wastes from agriculture.	Chemical uses in agriculture
New environmental ethics of peat land swamp forests to the community	This issue was how community people value peat land swamp forests
研究成果として通常は表に見えてこないが、現場での課題解決のために重要な要素である研究者や人びとの想いを、対象地の 多様な資源・生態環境 と共に映像で記録し、社会の新たな価値として見出す。	アジアやアフリカのフィールド調査の現場を「暮らしの目線」から眺めると、諸問題解決や未来社会の形成に向けた潜在性を見出すことができる。しかし従来研究では、それら潜在性を十分に表現できていない。
従来土壌は生産現場を通して人々がその資源的価値を肌感覚で理解できていたし、その保全に向けた人々の行動がつねに伴っていた。しかし、現在は都市圏に居を構える人々の割合が増え、衛生的な水や栄養価の高い食料を手に入れられているにもかかわらず、その土壌の生成や食料の生産現場としての 土壌の価値 が認識されなくなってしまった。市場の価値に埋もれがちになってしまった自然資源としての土壌の価値を再認識できる社会の創生を訴えたプロジェクトであった。	上記記述
グローバルな文脈での生物多様性の価値に基づく保全ではなく、地域住民の文脈の中での価値を探索し、それに基づく 生物多様性保全の在り方 の価値。また、研究から実践へと直線的につなげるのではなく、研究と実践を往還しながら、利害関係者を巻き込んでいく研究の価値。	従来の生物多様性保全および人と野生動物の軋轢緩和策は、外部から価値をつけ、教育等を通して、住民に理解を促すことが多い。その場合、表面上は効果をあげているように見えても、表面下では地域住民は反発しており、結果、状況が悪化することがある。
人々は長い歴史の中で、 自然に寄り添い 、動植物に名前をつけ、それを利用して暮らしてきた。そこには、先人たちの知識と知恵がある。これらを生物文化と称し、新たな価値として見いだそうとするものである。	人々は、化石燃料を利用するようになって、豊かさや便利さを求め、自然から離れた生活環境になってきた。人々の歴史の中で培ってきた動植物の暮らしの中の知識や知恵は急速に失われようとしている。
治水事業により農業生産力を向上すれば、労働力として増加人口の受け入れ先になり、食糧自給率も向上し、国家の貿易収支が改善される	既存の便益評価手法では治水事業によって守られる直接的な財産のみがカウントされ、事業実施まで至らない。
人と自然の間にある境界を意識することで見えてくる社会のあり方	境界が意識さえれないままに進んでいる社会が抱えている課題

問16. 「社会の新たな価値」：レジリエンスの強化

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
<p>大地震などの被害から地域社会が早期に回復し復興を遂げるために、民間企業の経営管理に組み込まれるようになった事業継続計画の考え方と手法を、地域社会に導入可能にするためのCCPの開発を行うこと。</p>	<p>地域社会は、情報収集力や日頃のつきあいなどの多様性によって、大規模災害からの回復力に差異がある。日常において、危機管理の意識を持ってないこと、および組織的対応力の構築や維持に課題がある。</p>
<p>環礁の環境・文化・社会における自然災害に対するレジリエンス</p>	<p>環礁の環境・文化・社会における自然災害に対する脆弱さ</p>
<p>The project examines new values for disaster preparedness emerging across Japan and Chile from playful methods such as games with children.</p>	<p>Existing values for disaster preparedness in international approaches tend to focus on technical or bureaucratic aspects, or abstract concepts like 'resilience'. But these tend to be top-down. This project elucidates values emerging from the ground up, specifically from playful activities in Japan and Chile. For example, the value of 'resourcefulness' in households seems to be one finding.</p>

問16. 「社会の新たな価値」：平和の構築に向けた協力

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
<p>「社会の新たな価値」は、国境・人種・民族を超える人類共存の知恵であるとともに、国家・人種・民族間の相互交流を促進し、紛争を解決するための新たな発想および教育方法である。</p>	<p>「既存の価値」は今までの思考様式および教育方法を指している。「課題」とは、新しい時代、とくにグローバル化社会に対応できる人材育成の方法、および共存社会の構築のための知恵である。</p>
<p>紛争研究、紛争解決の分野において、紛争の当事者あるいは原因となっているアクターを交えて、その地域なりの解決方法を目指すこと。武装勢力や武器を持っている住民を一方的に悪とみなして排除することなく包摂すること。</p>	<p>西欧諸国の既存研究に見られる、紛争解決において、ガバナンス、人権、法の支配といった欧米発の価値を共有するリベラルな地元パートナー（たとえばNGOや欧米で教育を受けた中間層）のみと手を組み、その価値観にあわない人々（貧困層や武装組織）がレッテルを張られるという課題。</p>
<p>当事者主体の政策立案・実践、国際協力</p>	<p>日本の政策立案プロセスと実践、特に国際協力においては、当事者を客体化し、「援助者」を主体化してしまう傾向が強かった。隠れた植民地主義的な前提・発想に気づかない人が多かった。</p>

問16. 「社会の新たな価値」：その他の新しい視点（1/3）

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
既存の国民国家中心の価値を超えて、辺境、周辺、非国家的な視点から新しい現象への取り組みを模索するもの。	国家中心、権力中心、資本中心、既成事実中心など、20世紀的なシステムによる価値観と制度。
ある種の自由性を保持する新しい自己と他者の関係性	特に発展途上国の農村などの小さなコミュニティにおいては自己と他者の関係性においてより硬く閉ざされている（Rigid）であること
本プロジェクトがめざした「社会の新たな価値」とは、移動や移住がわたしたちにとって当たり前前の生であると同時に欠くことのできないというものである。	「既存の価値」または「課題」とは、移動や移住を逸脱や問題としてみなし、定住を規範とするものである。
ロックフェス主催者の実践を通じた今後の社会を生きる人々の新たな主体性（生き方）の在り方	能動/受動で二元的に区分され、「主体的であれ」と言われ続けてきた近代的な価値観
人が生きる具体的な場所において、他者との形成と自己形成を遂げていく生涯のプロセス（時間）のなかで学ぶ知をこそ重視すること。	将来役に立つ知識や技能をできるだけ迅速に効率よく身につけるために、自らの生きられている現在と依って立っている場所を無意味なものにして不確実な未来にのみまなざしを注ぐ生き方。
既存の二項対立的な人間関係を抜け出して新しい他者との関係性を生み出すローカル知	自己と他者の相違性を強調することで、自分自身の立ち位置を確認し、対立した関係性を維持するような考え方
近代社会の根底にある自立と競争という価値を「既存」として、それにかわる「相互依存」を新たな価値として提示しました。	競争と自立、そしてそれらの称揚によって成り立つ社会。
支援を受ける側にある当事者の体験を丁寧に明らかにすることで、当事者のニーズや工夫・知恵を表し、次の社会に生かすこと。	既存の価値は、支援者がトップダウンで困りごとを抱える当事者の支援内容を決め、標準化するというものであった。災害時や急を要する際には、その方式が必要な場合もあるが、当事者不在で物事が決められてしまうという課題があった。
異なる感性に依拠するものや活動を、自らの感性にのみ依拠して理解するのではなく、他者が理解しているであろうようなやり方に即して内在的に理解し、表現する方法を明らかにする	感性の植民地化、すなわちある文化に特有の物事を感じ取る仕方が、他の文化の支配によって失われていく傾向については、研究の主題となることが少なかったが、それは文化の喪失や相互不理解をもたらすという課題
自由な発想から、創造力を持って問題を解決できる人材が生き生きと活躍できること	
社会問題に対して、人々が問題解決を図ろうと試行錯誤するプロセス自体であり、そこで構成されるつながりやネットワークのこと	社会問題に対して、権威のある主体や組織が持つ、定式化された知識やノウハウ、よって立つ理念
教職や行政職を含む対人サービス者も支援を必要とするという新たな価値の創出。	-

問16. 「社会の新たな価値」：その他の新しい視点（2/3）

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
本プロジェクトの根底には、たとえ困難があろうが『福』が『農』と連携しなければならない理由は何か」という問いがある。労働者が農作業の醍醐味を経験することが可能になり、その瞬間にこそ、自ら生殺与奪の権を握りかねないような家畜や作物の姿に自らへ向けられた表現を読み取るという農業労働の特質が、新たな社会福祉の展開へと昇華されるのではないか。このような農福連携の潜在的真価を社会的に発揮させる。	今のところ、国内の農福連携や海外の類似の事例に関する研究は遍く、無前提に農業分野と福祉分野がwin-winの関係にあることを与件としている嫌いがある。一般的に、社会的包摂や福祉に関する議論では、支援を受けている者に技能の向上を期待することは危険視されている。これでは、某国会議員の「生産性」発言や相模原事件の背後にある優生思想に正面から反論することはできない。
The importance of learning to listen from those who have dedicated themselves to listening to human pain	Ethical considerations around what it means to listen to another.
Values related to constructive cross-border sentiments and engagement. Partly, this could be about uncovering how existing values(environmental, religious, community etc.) are actually pertinent to solving international environmental problems like the haze.	-
The 'new values for society' this project aims to develop is democratic communication in populist times.	Our project challenges the individualistic approach to problem solving. Instead it promotes collective decision-making based on norms of respect, listening, and reason-giving.
The existing value that I critiqued was the subordination of right to privacy in India to the greater good of socioeconomic empowerment. I proposed new values namely, information integrity and information autonomy to allow society and individuals to protect themselves against privacy violations under the biometric identity project, Aadhaar.	A legal right to privacy was dismissed by the Indian government in the implementation of the biometric identity programme Aadhaar, which enrolled people in welfare schemes. The government argued privacy did not exist in Indian society and culture. It was this idea of subsuming privacy to the greater good that the project critiqued and formulated new values.
Online considerateness	Against: Online inconsiderateness, aggression
The new value we wanted to develop was a better understanding of how to communicate effectively on polarising issues.	-

問16. 「社会の新たな価値」：その他の新しい視点（3/3）

社会の新たな価値	「既存の価値」、または「課題」
<p>My research project explores the social worlds and family relations of young people born from genocide rape in the 1994 Genocide against the Tutsi in Rwanda. These young people have been stigmatized and excluded from parts of society due to the way they were conceived and their relation to past trauma of their mothers and communities. This research looks into ways they are included and accepted by their families and communities to show "new values for society" which can serve as an example to other conflict affected regions in the world where children are born from sexual violence.</p>	<p>This research challenges existing values around family relations, patrilineage and gender relations in Rwanda, which negatively affect the lived experiences of youth born from rape. New values it introduces is how social relations and families were reconstructed 25 years after genocide, and how old value systems have been reformed into values that allow the acceptance of these children.</p>
<p>国際人権法を含む法全般は政府や裁判所を通して履行される他にも「見えない」機能がある。というも、国際法規範を現地に持ち込み、人々のモラルやコミュニティーの社会規範を再構築することによって社会を変革する機能である。私の研究は、幼児婚を含めた婚姻や性的関係の規範を例に、この「見えない」法の機能を含めて調査し、国際人権法の新しい価値を見出すものである。</p>	<p>国際人権法が草の根レベルの社会に与える影響には限界がある。インドネシアの幼児婚の例でいうと、インドネシア政府が幼児婚を禁止する国際法に批准しているにも関わらず、宗教裁判所では国際法規範よりも市民の価値観に近い宗教法や慣習法規範が使われ、幼児婚が法的に認められるケースが多くある。</p>
<p>全く新しい初期宇宙の観測研究を開拓し、宇宙の理解の革新につなげる。特に、超新星爆発は宇宙進化の原動力であることから、初期宇宙における超新星爆発の性質が明らかになることは、開闢から多様な元素に満ち溢れる現在に至るまでの宇宙の進化、太陽や地球の起源、ひいては生物の起源を解明する手がかりとなる。</p>	<p>宇宙は開闢より現在まで約137億年の年月をかけて進化してきた。宇宙進化の原動力は星の誕生、星の一生、星の最期である超新星爆発、次世代星の形成というサイクルである。しかし、それらの詳細な寄与については未だ謎が多く、初期宇宙における星、超新星爆発および宇宙進化を探るための新しい手段を確立することが求められていた。</p>
<p>We are aiming at a new framework for understanding moral values in general, based on the theory of morality-as-cooperation.</p>	<p>We were arguing against previous pre-scientific taxonomies of moral values.</p>
<p>過去の価値を見据えた上で、これまで評価されてこなかった視点で、捉え直したこと。</p>	<p>既成概念や、普段意識されない常識となっているもの。</p>
<p>透明性、連帯、贈与といった価値観を重視する金融機関を研究することを通じて、贈与の新しい意義を考察した。社会を質的に向上させていくためには贈与が不可欠だという考え方を深めた。</p>	<p>社会に価値を生み出すのは経済活動で、経済成長を限りなく続けていくために金融は利用されるべきだという価値観。</p>
<p>今まで無視されていたもの、軽視されていたものへの注目。既にあったものを別の文脈に置いてみる、別の視点から見てみることで生まれてくる価値</p>	<p>知らないということが軋轢や問題を生む。理解が共生の一步となる。しかし多くの場合知らないことは「見えない」ことであり、「見えない」ことを理解することは難しい。</p>
<p>市場経済の中で経済的な価値が下がっても誰もが持つ非経済的な価値で補えること</p>	<p>経済的な価値</p>

問17. それはどのような社会を目指したものであったか (1/7)

複数民族の協働

単なる環境犯罪として捉えられていたものを、無形民俗文化財として、生活文化として捉え直すことで、環境や生態をも含めた広い視座で考える契機を生んだ。

国立公園に内在する遺伝資源の持続可能な利用法の確立による自然環境との共生実現

本研究の完成によって、これまで人類が到達できなかった初期宇宙研究への道筋をつけ、全く新しい初期宇宙の観測研究を開拓し、宇宙の理解に革新を起こす。得られた知識は人類共通の財産となる。

対話と共生を目指す「アジア」と世界

直接的にはベトナムの農村における住民参加型の地域づくりを展開できる社会ですが、キーワードはインターローカルでした。つまり国境を越えても同様の課題を抱えている地域（国よりも小さい単位なのでインターナショナルではありません）同士の知の相互連関を生み出す仕組みを考察しました。

理想としての平和社会や共生社会というよりも、個々の当事者やステークホルダーに対応できる手触りのある実践が伴う社会の実現

忘れ去られた自然資源としての土壌の持つ価値に対し、基本法の制定を通して誰もがその価値を再考し、国土に広がる様々な土壌を保全できる枠組みを構築することを目指した。

入力してもエラーとなってせっかく書いたものが消えてしまいました。
 非常に不快です。しっかり書いたつもりでしたが2度書く気になれません。
 安定した農業生産力に基づく貧困のない社会。

文化財・地域コミュニティ・行政の共生の実現

経済的な価値を生み出すことが得意な人、文化的な価値を生み出すことが得意な人など、様々なタイプの人間がいるが、金融を利用して、それぞれが自分の能力を最大限に生かせる社会の実現。

自己と他者の関係性の構築においてより寛容性の高い社会

自然環境が提供するエコシステムサービスを最大限に利用できる社会です。

差異を尊重し平等に包含する共生社会の実現。

都市部と農村部における教育格差の是正、多様性や創造性のある教育機会・空間の提供、画一的でない地域固有の文化・特徴・生業を取り入れ、震災復興の機会を活かした自由な学校の創造、震災復興の学校再建に関する知見の応用を目的とする。特に発展途上国での教育の機会均等や、日本を含めた災害が多く発生する地域や国における災害復興の学校再建へ寄与したい。

都市という環境の中で、原住民の人々が自らの権利や自然や空間に関する価値観を主張できる社会。

大都市向け、外来的開発ではなく、地域のヒト、モノ、カネ、コトなど多様な「地域資産」に着目し、その地域資産を発掘、連結、循環、蓄積していくことで、観光客や定住・移住者の増加を促し、人口減少社会が解決する社会。

問17. それはどのような社会を目指したものであったか (2/7)

ひとがみな一人のひとであることをあたりまえに認識する社会

自分と異なる歴史、信仰、慣習を持つ人たちとの共生。他者との差異が排斥ではなく、豊かさとして認識され、尊重されるような社会

地域に暮らす人々とそこを訪れる人々をつなぐ役割をすることで、森林の断片化が著しい地域における持続的な生物多様性保全と深い地域理解を実現する社会

都市と地方での文化・教育インフラの格差のない社会の実現

社会の発展が永続できない中でお金以外によって人が豊かになれる社会の実現

国家による社会福祉に過度に頼りすぎない格差のない社会の実現。

都市スラムにおいても、生活者の自由意思が尊重されつつ、かつ、スラム全体としても劣悪な生活環境が自動的に改善されていく社会の実現を目指しました。

災害リスクを減らし、被災住民の健康を長期にわたり守る方法の確立

積極的な包摂的社会の実現

自分を取り巻く環境（歴史遺産豊富な旧市街カイロ）を認識し、それが自己の誇りやアイデンティティとなり、環境を絆として自己や家族という基本単位を脱してより大きなコミュニティを考えられる社会の実現。

アジア・太平洋地域において、相互理解を促進し、共存できる社会の実現を目指したものでした。

地域住民のフレイルを理美容院でチェックでき、介護予防ができる社会

社会の底辺でもっとも厳しい労働を担っている移民や外国人労働者を二級市民として扱うことのない社会。

自治体・地域を支える多様な主体が他者に開かれた視点をもって地域課題に臨み、身近な風景や景観のもつ人間的・社会的機能を自覚的に問いながら、互いに共生しようとする社会の実現。

災禍の「当事者」概念を拡張し、空間的、時間的に遠い人々もある種の「当事者」として巻き込み、社会的問題をひろく開いて多様な人々が分有しながら思考できるような社会の実現

ロックフェス主催者が各地域社会でフェスを生成し、やがて「ローカルフェス」となる。そこで実現されるのは、誰もが創造的にものをつくり、他者と関わることでできる新たな地域社会

ある社会に存在するある言語に地位を与えることで、その言語を用いる民族の地位までも確立してしまう、またはある人のアイデンティティと結びついている言語を社会の制度を通じて奪ってしまうことをさせない社会を目指したもの。

「生命の安全」、「生活の安定」、「生業の営み」の3点がつつがなく持続するようなごく普通の社会です。この3つにいびつさや偏りが生じ、結果として持続性が損なわれつつあるのが現状だと考えます。

People with diverse cultures understand each other and live harmoniously

問17. それはどのような社会を目指したものであったか (3/7)

<p>効率や機能のみを重視する社会に替えて、各人が成長の歴史と具体的な場を「生きられる時間」と「生きられる空間」として育っていけるように自覚した社会の実現にささやかながらでも貢献できればと願っています。</p>
<p>地域の人々が考える自然との共生の在り方を具現化する。外部者が持ち込む価値や「保全」という外来語ではなく、そこにある価値に光をあてることで、地域に根付き、長期的に成功する野生動物との共生の実現。</p>
<p>自然環境との共生、その実現については具体性に乏しいといえるかもしれない。その共生を、自然と人とのつながりとしてとらえたい。生物文化は、そのつなぐ役割を担うひとつのツールとして考えたい。</p>
<p>社会の構成員が共通の価値観を保有し、人種や移転前に所属していた社会に固有の習慣や価値観にはとらわれないこと。</p>
<p>多様な考え方の人々が共に生きていくことを可能とする共生社会</p>
<p>「暮らしの目線」から研究者とそれに呼応する人びとの感性を映像によって表現し、自然との共生を文化に織り込む芸術表現の実現、また開発支援や生態系・生物多様性の保全などの社会実践の一助となることを目指す。</p>
<p>不安や、恐怖などを包括していた心の豊かさを今にいかにかかすことができるか</p>
<p>セクシュアリティやジェンダーにかかわらず、すべての人が安心して老い衰えることのできる社会の実現 を目指したもの</p>
<p>よりよい母子保健政策、実践</p>
<p>「弱者」とされない社会、「強者」が下品な振る舞いをしない社会、一人一人が納得感と責任感を持てる社会、の実現</p>
<p>地域住民がNGOや地方政府、あるいは欧米ドナーの顔色をうかがうことなく、独自の解決策を探り、それを臆することなく発信できる社会。さらに、そうしたローカルの知見がドナーコミュニティに受け入れられるような社会。</p>
<p>まちのなかのガーデンでの活動を通して、誰もが日常的にコミュニケーションをとれる社会。</p>
<p>多様な家族のかたち（伝統的な家族から、生殖医療できた家族、同棲カップルの家族、シングル親と子どもで成立する家族）などを受け入れ、尊重する社会。</p>
<p>1. 人と自然との共生 2. 人と人との共生・協同</p>
<p>医療・介護・福祉のタテワリを排除し、当事者を中心に一体的にケアを提供する社会</p>
<p>ため池の評価を契機として、さまざまなタイプの生態系が希少種のみならず環境要因の健全性も基軸として網羅的・体系的に評価されるようになり、生態系全体を対象とした保全・再生が増える</p>
<p>人間が疎かにされない社会。つまり、人間の労力、労働が無駄遣いされず（効率性基準）、かつすべての人が、他人の人生と自分の人生を取り替えたいとは思わないような（公正性基準）社会。</p>
<p>自律的で自主的なレジリエンス（回復力）を備えた地域社会の構築</p>

問17. それはどのような社会を目指したものであったか (4/7)

人間が完全に制御することが困難な自然環境のなかで生きていることを実感しながらも、安全と幸せを祈り、ともに支えあう地域社会の実現。

弱さや多様性に寛容な社会、包摂的な社会

排外主義と国際協調主義の二項対立に陥らない思考様式を育み、このことを通じ、自文化を尊重することが他文化の否定につながらないような社会の実現をめざすものであった。

ローカルな環境・文化・社会の潜在的なレジリエンスが評価・強化されるような社会の実現

障害の有無や程度にかかわらず、望む場合は誰もが高等教育機関で自由に学ぶという権利を行使できる社会の実現。

感染症の罹患者やその家族に対する差別・偏見のない社会の実現

他文化との交流がますます盛んになると予想される状況において、より正確に他文化を理解し、また自らの文化を伝えられる社会であり、またその中で、他者の感性をもとに自らの感性と文化を捉え直すことのできる社会

災害後も継続して、がん患者やその家族が適切に医療やケアを受けられること

学術研究と日系人社会が共同で市民の記憶を調査・保存・伝承するか活動する中で、民族集団や地域への帰属意識の再活性に貢献しうる知識を作り上げ、海外の日系人と日本との新たなつながり方が生み出される社会。

文化的多様性および歴史的な多層性

中国農村部の新しい学校デザインに関する研究を推進することで、地域のイノベーションを起こすための条件を提示でき、地域・教育格差是正や災害復興における従来の外部からの力だけに頼る方式を前提とせず、自ら抱える問題の解消、内発的地域振興の促進に寄与することもできる。また、発展途上国における都市部と農村部間の教育や学校施設の格差が改善することや、災害復興がルーチン化している日本を含めた、災害が多く発生する世界各地域や国に、意義深い知見を提供することもできる。

多様なセクターの主体が活躍できる社会の実現

新しい問題に対して、その都度対応を考え、実行できる人々のネットワークのある社会

地域が持続可能な社会の実現

ある違いが社会的に作り出されたものであったなら、違いを認めてあげようとする態度は社会的排除の追認でしかない。つまり違いがどう発生するのかを理解する社会こそが真の共生社会である。

スキップ

SDGsの達成への貢献

すべての人が仕事上・家庭内などのタテの関係や金銭契約を重視しすぎない、一人の人間として尊重される社会の実現。

問17. それはどのような社会を目指したものだったか (5/7)

富裕層が納税や寄付を通じて貧困層を支援することにより自らの営為を正当化することを許さず、富裕層が自らの地位を維持することを「つまらない」と思える社会。

Warning about unreasonable policies in health care for the elderly and people with disabilities

We intended to change the society from less care of quality of agricultural products to more care about organic farms and recycling bio-wastes for organic fertilizer.

A society living in harmony with the peat land swamp forests

Because of immigration, families are being split up. We were exploring the ways in which families stay together despite being physically apart. Therefore, we were looking at a Caring Society despite distance.

A society living in harmony with diversified religions and practices

A Colombian society more empathetic and willing to listen to the stories of war and armed conflict and to be touched by these stories.

Through our project we aimed to help people better understand cultural, religious, and ethnic difference of people living in a certain area and compare them to those of Japan in order to learn how to better live together in peace and harmony with refugees, newcomers, and others. The findings are applicable in areas with similar dynamics around the world.

A society with Mild Cognitive Impairment in Dementia Care Unit.

The goal of this project has been the one of proving the importance of creating, especially in a post-war society, the condition to allow the society itself to live in harmony. Harmony can be achieved only when a clear, fair, balanced, and broad debate about history exists in the society itself. For countries responsible for war acts is has been very hard to achieve this kind of debate. The project has explored and presented new ideas and strategies to make this engagement possible.

This funded project intends to realize a society of women and their future generations who are empowered to make decisions that are more aligned to their personal values, goals and preferences through a new value of shared decision-making on breast cancer prevention in a safe environment. Improved decisions are expected to decrease the incidence and burden of breast cancer.

A knowledgeable, aware and proud society

A society respecting multicultural identity, protecting the cultural heritage of the past and integrating otherness in the present.

A society fully supportive and recognising the value of solving cross-border international environmental problems like the Southeast Asian haze crisis or the climate crisis

A society that can deliberate their differences of opinion amidst trauma, displacement, and uncertainty.

A society where legal rights and protections exist for the most vulnerable individuals. The rights and protections should be meaningful for them as well as the means to access them should be easily available.

問17. それはどのような社会を目指したものだったか (6/7)

The society protecting the rights of refugees as a human being, no matter their immigration status or other circumstances.

A society in which children born from sexual violence are accepted and included in their social structures, as well as recognized for who they are in wider global discourses which often portray them as ""war babies"" which undermine them as the individuals they are, with agency and resilience, rather than solely as victims. In Rwanda particularly, this research aims to challenge the government who have not adequately represented these young people in programmes for genocide survivors because they were born after the genocide and thus not recognised as ""survivors"" whilst their lived experiences are ultimately shaped by genocide. This research hopes to encourage other contexts worldwide to include children born of rape in programmes assisting war-affected children and to prioritize them in the policies and strategies related to supporting them and their mothers, realizing inclusive post-conflict societies globally.

Realizing a society that promotes individual and collective happiness to achieve sustainability and inclusion.

A society in which the use of digital data (which will become an increasingly important and powerful resource) will not be captured by a few powerful actors, and inaccessible to other, but rather will be accessible and beneficial to all members of society, and enables cooperation and wide innovation. In particular, data on food and agriculture, as they are so key to sustaining human life.

Societies with less disparities

Realizing societies with citizens who are better prepared for disasters in their everyday life, facilitated by greater international cooperation.

Realising a society living in harmony with the natural environment.

A society that is considerate and respectful in communicating with one another in online environments

We intended to realise a society that acknowledges individuals' experiences as part of communication efforts.

考古学・文化遺産研究の脱植民地化の実現を目指した。旧植民地諸国では、考古学は多くの場合、植民地時代に導入された。アフリカ諸国では、多くの場合、今でも遺跡は外国人研究者し、その遺跡と直接関連する文化を受け継ぐ人々の視点や知識を鑑みられなかった。しかし、文化遺産保存は、地元民、考古学者にとって共通した問題である。そのため、当研究では、協働作業を通じて、植民地時代に確立された、考古学をめぐる社会的構造を変えることを目指した。

国際人権法が机上の理想論に終わらず、人権法が守ろうとする各地の人々にとって有用なものとなる社会。そのような国際人権法実現のためには、トップダウンだけでなく、ボトムアップ、つまり草の根レベルの社会における国際人権法の有効性についての考察に基づいた法づくりと履行の工夫が必要である。

We aim at a society with a greater understanding of the variety of moral values, as well as greater appreciation for the values we all have in common.

当地域の文化の重要性を知り、それを保護していくことで伝統文化が守られ継続していく地域の実現を目指した。

過去の戦争の記憶とより良く向き合うことのできる社会

公平な社会・世界

問17. それはどのような社会を目指したものであったか (7/7)

ハンセン病回復者の体験された艱難辛苦を二度と繰り返さない。ハンセン病回復者が人生を賭して得た叡智を後世に語り継ぐ。→人間の尊厳

自然環境との共生、その実現については具体性に乏しいといえるかもしれない。その共生を、自然と人とのつながりとしてとらえたい。生物文化は、そのつなぐ役割を担うひとつのツールとして考えたい。

問29. 助成中、または助成を受けた後に、受賞歴があれば詳細を記載してください。

政府関連組織、公益法人等からの受賞歴は以下のとおり。

◆ 政府関連からの受賞

- Fundamental Research Grant Scheme / Malaysian Ministry of Education / 2019-2022年
- Abe Fellowship / Social Science Research Council (SSRC) & Japan Foundation Center for Global Partnership (CGP) (※) / 2019-2020年
- 厚生労働大臣表彰 / 厚生労働省 / 2019年
- 第40回 発展途上国研究奨励賞 / ジェトロ・アジア経済研究所 / 2019年
- Issues in Aging Focus Group Award - Professional / 米国 National Council on Family Relations / 2019年
- National Prize in Social Sciences, Fundación Alejandro Ángel Escobar / 2017年
- 第56回 科学技術映像祭 内閣総理大臣賞 / 2015年 (※)
- 平成26年度 文化庁映画賞 文化記録映画優秀賞 / 文化庁 / 2014年
- ゴールドヒストリーブック / ラオス人民民主共和国ルアンブラバン県パクセン郡 / 2014年
- Grant (詳細不明) / The Australian Research Council / 時期不明
- Grant (詳細不明) / The Australian Government / 時期不明
- Grant (詳細不明) / The Singapore Government's Education Ministry / 時期不明

◆ 公益法人等からの受賞

- 母子保健推進会議会長表彰 / 公益法人 母子保健推進会議 / 2018年
- 2016年度ひと・健康・未来助成研究優秀賞 (環境分野) / 公益財団法人ひと・健康・未来研究財団 / 2016年

(※) は、アンケート上に年月の記載がなかったため、日本総研にてインターネット上の情報から追記したものと出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問29. 助成中、または助成を受けた後に、受賞歴があれば詳細を記載してください。

学会や大学からの受賞歴は以下のとおり。

◆ 学会からの受賞

- 日本建築学会2020年日本建築学会著作賞／日本建築学会／2020年
- 第13回地域社会学会奨励賞（個人著作部門）／地域社会学会／2020年
- 土木学会論文奨励賞／土木学会／2020年
- 第7回日本平和学会平和研究奨励賞／日本平和学会／2019年
- 第27回学術大会 ベストポスター賞／日本沙漠学会／2019年
- 特定領域研究奨励賞（小田賞）／日本国際経済学会／2019年度
- 第31回 日本アフリカ学会研究奨励賞／日本アフリカ学会／2019年
- 第25回 高島賞／日本ナイル・エチオピア学会／2019年
- 学会賞／地域活性学会／2018年
- 国際ボランティア学会賞『非戦・対話・NGO』新評論／国際ボランティア学会／2017年
- 第12回 日本文化人類学会奨励賞／日本文化人類学会／2017年
- 第27回学術大会 ベストポスター賞／日本沙漠学会／2016年
- ISAIA第11回アジア建築国際交流会、ISAIA2016 Academic Session Award／2016年
- 建築九州賞（研究新人賞）／日本建築学会九州支部／2014年
- 日本看護研究学会 学会賞／日本看護研究学会／時期不明
- 日本村落研究学会研究奨励賞（単行書部門『トウモロコシの先住民とコーヒーの国民』）／2014年

◆ 大学からの受賞

- 令和元年度鳥取大学長表彰「田園回帰と継業に関する研究が社会的に高い評価」／鳥取大学／2020年
- 名誉教授号（公文書番号1640/QD-DHH）／フエ大学（鳥取大学学術交流協定校）／2019年
- The Anthropology Prize for Outstanding Graduate Research and Publication／The Department of Anthropology, Stanford University／2019年
- Sophia University Internal Collaborative Grant／Sophia University／2018-2021年
- ベストティーチングアワード／早稲田大学／2017年
- Educational Innovation Grant for Media Pedagogy／Sophia University／2015年
- Faculty-Staff Collaborative Grant（教職協働研究）／Sophia University／2014年
- Educational Innovation Grant／Sophia University／2012-2015年
- Digital Identity Research Initiative fieldwork grant／Indian School of Business in Hyderabad／時期不明

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問29. 助成中、または助成を受けた後に、受賞歴があれば詳細を記載してください。

その他各種受賞歴は以下のとおり。

◆ その他

- MAXQDA International Conference 2020 Poster Presentations and Awards 3rd Prize/2020年
- Ministry of Education Grants-in-Aid for Scientific Research C (PI)/日本学術振興会/2018-2020年
- 第34回農業ジャーナリスト賞受賞(『移住者による継業』(2018年, 筑波書房, 尾原浩子と共著)/2019年
- 第34回農業ジャーナリスト賞奨励賞(『イナカをツクル』(2018年, コモンズ, 嵩和雄著・筒井一伸監修)/2019年
- 第46回 澁澤賞/澁澤民族学振興基金/2019年
- 第14回 国際宗教研究所賞/国際宗教研究所/2019年
- XXV IUFRO World Congress Scientist Assistance Program, Curitiba, Brazil/2019年
- KAIKA Awards 2018/2018年
- INNOVA Prize 2018/2018年
- The Society for East Asian Anthropology, Theodore C. Bestor Prize for Outstanding Graduate Paper, Honorable Mention/2018年
- 第39回沖縄文化協会賞 金城朝永賞/沖縄文化協会/2017年
- 第5回 若手難民研究者奨励賞/難民研究フォーラム/2017年
- 125th IUFRO Anniversary, Freiburg, Germany - ADB SFBMB conference travel support award/2017年
- Graduate Paper Award, International Contemporary Ethnography Across the Disciplines Association/2016年
- Ministry of Education Grants-in-Aid for Scientific Research B (PI)/日本学術振興会/2013-2016年
- 詳細不明/Research Institute for Humanity and Nature (総合地球環境学研究所)/2014-2015年
- 難民若手研究者奨励賞/2015年
- XIV WORLD FORESTRY CONGRESS, Durban, South Africa - FAO partial conference subsistence support award/2015年
- XIV WORLD FORESTRY CONGRESS, Durban, South Africa - APFNet conference travel support award/2015年
- Graduate paper award, International Sociology of Sport Association/2014年
- XXIV IUFRO World Congress Scientist Assistance Program, Salt Lake City, Utah/2014年
- Osaka Gas Foundation for International Cultural Exchange Research Grant/Osaka Gas Foundation/2013-2014年
- 第88回 キネマ旬報ベストテン 文化映画部門第1位/2014年
- 第2回 グリーンイメージ国際環境映像祭 グリーンイメージ賞/2015年
- 第5回 守屋賞/2017年度
- 第10回 若者力大賞「ユースリーダー賞」/2018年

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問39. 自由回答から得られた結果① 間口の広さ (1/2)

学術的な成果に囚われず、社会が必要としている革新的あるいは実践的な研究を多様に採択している点を、評価するコメントが寄せられた。

間口の広さ（分野、年齢制限、実績の多寡）に対する評価の裏付けコメント

<p>すぐに出る成果や実績に囚われない、革新的な、斬新な、枠に囚われないなどの研究の継続を強く期待します。</p>	<p>学術的な内容にとらわれず、社会が必要としていること、または今後必要と思われることについて幅広い採択をしている点が特に優れていると思います。また、「新しい価値」について自分の申請が採択されたことは、自分の考えが一定の共有性を有したという証明にもなり、嬉しく思いました。また機会があれば是非応募したいとおもいます。</p>
<p>学術的な研究だけではなく、実践的で挑戦的な研究課題も貴財団に採用されることは非常に感謝しています。</p>	<p>助成金の自由度の高さや、必ずしも学術的でなくても社会が必要としている研究に対して支援している点は大変ありがたいです。また、今後の社会に必要となるであろう新しい課題についても支援をしていただけたら嬉しいです。</p>
<p>実戦的な研究また挑戦的な研究も積極的に採用されていることに対して、大変感謝しています。</p>	<p>学生として採用されて、研究を進めるチャンスをいただけるだけでなく、大きな励みとなりました。現在、博士論文を仕上げる最終段階に入っています。この研究の成果を学術、社会に還元できるよう、今後とも日々努力してゆきたいと思っています。</p>
<p>トヨタ財団の研究助成プログラムは、研究と実践を架橋する試みを積極的に支援しようという姿勢が明確であった。今後ともそのような姿勢をぜひとも継続していただきたいと思う。</p>	<p>科研費などの学術研究の枠にとらわれない研究や活動に助成をいただいた点、財団職員の方とコミュニケーションをとりアドバイスをいただきながら研究・活動を進められた点、社会コミュニケーションプログラムとして成果の発信に対する助成をいただいた点など、他の助成プログラムにはない特徴で、当方にとっても大変有意義であったと感じています。</p>
<p>過去の業績などを斟酌しないのもひとつの見識だと思いました。</p>	<p>私たちの研究は、現時点において、経済性、社会性、外部の評価などとは縁がないようにも思われます。そのような中でも、評価していただきました。必要性や長い目でみてくれた財団の姿勢を感じました。</p>

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問39. 自由回答から得られた結果①間口の広さ（2/2）

若手の研究者や在野の研究者の研究に対する助成も高い評価を得ている。

間口の広さ（分野、年齢制限、実績の多寡）に対する評価の裏付けコメント

自分は大学教員だが、在野の研究者、研究番号を持たない研究者への研究助成の機会をぜひ今後も提供し続けてほしい。

まだまだ**研究の実績も浅かった応募時の私の研究を選んで支援してくださり、感謝**しています。伝統的な大学研究の枠ではなかなか受け入れられにくい学際的・実践的な研究を財団が支援することで、研究内容を積極的に社会に還元していくことを前提とした研究が元気になっていくと思います。

大きな金額の柔軟な助成だったため、沢山の意義のある、しかしクリエイティブで国際的な活動を展開し、成果を出すことができた。**現在、申請者の応募年齢が下げられたことは大変残念。**

-

問39. 自由回答から得られた結果②財団からのサポート（1/2）

財団のプログラムオフィサーからの助言を評価する声は多数寄せられた。特に、回答者は、研究中の課題解決において助言を受けた点を評価している。

財団からのサポートに対する評価の裏付けコメント

<p>財団の職員の方々の学識レベルが高いと思いました。アドバイスは参考になることが多かったです。</p>	<p>助成決定後のサポートがしっかりしており、大変ありがたかった。</p>
<p>資金面も大変ありがたかったのですが、プログラムオフィサーの方が、親身になって助言をくださったことも非常に助かりました。社会の課題はますます複雑になっています。研究機関に所属しない在野の研究者、個人の研究者にもぜひ応援をお願いしたいです。</p>	<p>プログラム・オフィサーの方との面談も楽しかった。「お金を与えて終わり、さっさと成果を出せ」というタイプの助成ではない点が素晴らしい。助成期間中に得られた研究データは、助成期間終了後にゆっくりと形になっていった。このようなタイプの研究を支援してくれたことを感謝している。</p>
<p>いろいろとフェローの方にお世話になりました。</p>	<p>プログラムオフィサーとのやりとりがとても刺激になった。今後も交流を続けたい。</p>
<p>研究計画が予定通り進まない際に親身に相談に乗っていただき臨機応変に対応していただきありがたかった。</p>	<p>時折いただくプログラムオフィサーをはじめとするスタッフの方からのアドバイスや情報提供も非常に有益でした。</p>
<p>ご担当者の対応がよく、また、計画に若干の遅れが生じた場合でも、柔軟な対応をして下さった点は、本当にとても助かりました。助成目的の一つが「還元」と明確であったことも、研究計画の上でアウトプットを明確化することができ、とても良かったと思います（科研費等とはまた異なるアウトプットの求められ方だったため）。また是非応募したいと思っています。有り難うございました。</p>	<p>ご担当をいただきましたプログラムオフィサーの方々のご支援に感謝しております。研究実施にあたり、予想もしなかったような諸問題が発生し、何度もあきらめそうになりましたが、状況および研究実施に当たり問題となる事項を具体的に洗い出し、ひとつひとつ親身に考えていただきました。助成期間は、孤独感を感じることなく過ごすことができました。プログラムオフィサーの方々のプロフェッショナルとしての姿勢が、その後の研究のテーマにつながりました。ありがとうございました。</p>
<p>当時のプログラムオフィサーの方からは有意義な助言をもらえて、大変ありがたかったです。私も科研費や他の民間助成をいただいた経験は複数回あるのですが、初めての経験で緊張感をもって研究に取り組みました。</p>	<p>財団の方々と、非常に密にコミュニケーションをとらせていただいたことが、とても印象的でした。研究計画や助成金使途の変更等について細かくご相談できて、非常に安心してプロジェクトを勧められたという思いです。</p>

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問39. 自由回答から得られた結果②財団からのサポート（2/2）

財団のプログラムオフィサーからの助言を評価する声は多数寄せられた。特に、回答者は、研究中の課題解決において助言を受けた点を評価している。

財団からのサポートに対する評価の裏付けコメント

<p>科研費などの学術研究の枠にとらわれない研究や活動に助成をいただいた点、財団職員の方とコミュニケーションをとりアドバイスをいただきながら研究・活動を進められた点、社会コミュニケーションプログラムとして成果の発信に対する助成をいただいた点など、他の助成プログラムにはない特徴で、当方にとっても大変有意義であったと感じています。まだ現在進行形の社会コミュニケーションプログラムがありますので、よろしくをお願いします。</p>	<p>開始当初からトラブルによる計画変更をご承認くださり、また研究後半の産休に対応して研究期間を1年延長くださり、大変助かりました。おかげさまで落ち着いた考察・まとめ期間を得られました。プロジェクト期間中には大きな成果は得られませんでした。その後、協力してくださる研究者が見つかり研究継続によって成果を得られる見通しが立ってきました。財団スタッフの皆様には多大なご迷惑とご心配をお掛けしましたが、その都度親身になって相談にのってくださり、深謝しております。</p>
<p>予算の使用に関して制限がもう少し緩くなると、研究状況の進捗に合わせてより迅速かつ柔軟な研究が行えると感じました。他方で、トヨタ財団関係者の皆様には、専門的なアドバイスや聞き取り対象者に提示する公的レターの発行を含め、多大なサポートをいただきました。トヨタ財団プロジェクトでの実績と経験が、現在の仕事につながりました。誠に有り難うございました。</p>	<p>財団の研究助成プログラムのスタッフの方々によるヒアリングは大変有意義であった。ヒアリングというより、双方で意見を出し合い、情報交換する場になっていたと思う。「ヒアリング」と聞くと少々身構えてしまう人もいないので、スタッフの方々の側から、情報交換の場であるとの旨を伝えてもよいかもしれない。</p>
<p>Besides the guidelines, I was directly supported by the grant program's experts. (ガイドラインに加えて、助成プログラムオフィサーから直接支援を受けた。)</p>	<p>I received a great deal of support from Toyota Foundation officers as I was preparing to apply for the funding and during the two years of my research project. An officer also spoke with me at length after the project was completed and I was encouraged to apply again. Unfortunately, I was not successful in my application then. (応募段階から2年間の助成期間にわたり、多大なるご支援をいただいた。プロジェクト終了後、プログラムオフィサーと長期にわたり対話を継続しており、再応募しようと動機づけられた。残念ながら、採択はされなかったが。)</p>

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問39. 自由回答から得られた結果③運用の柔軟性について

助成金の運用に関する柔軟性が高いことを評価するコメントが多い。他方、経費申請の方法については、改善の余地がある。

運用の柔軟性に対する評価の裏付けコメント

<p>国際研究や学際的な研究を後押しし、柔軟な予算使用が可能な本財団のサポートによって、大きな成果を得ることができました。また、機会があれば、ぜひ、応募を考えたいと思っております。未長く、こういった研究助成が継続されることを願っております。</p>	<p>他の研究助成の多くでは、経費報告がWordやExcelなどで手打ちしメールや印刷して郵送であるのに対して、ウェブサイトを主に用いていた点が便利だった。ただ、領収書についても、郵送ではなくスキャンや写真で対応できたならばより便利だった。</p>
<p>日本における助成金は使用目的の自由度が低い中で、貴財団では柔軟な対応をさせていただいたことに大変感謝している。そのおかげで、難易度の高い研究を、計画通り進めることができた、と思っている。研究を始動したときに、貴財団の助成金がなければ、今の私はなかったといっても過言ではありません。他の助成金が、研究者の応募要件に厳しい制限がある中で、貴財団の柔軟性とおおらかさは、次世代の研究の原石を発掘することができる、素晴らしいものだと思います。より、研究者や研究分野の多様性に対応し、大学に所属し一定の潤沢な資金をもっと教員だけでなく、フィールドや、世界各地で地に足の着いた地道な研究者に助成金を得るチャンスが広がることを望みます。</p>	<p>I greatly appreciate the fact that the program does not set boundaries in regards to what researchers can explore. That is inspirational and liberating in contemporary times where funding is closely linked to specific themes and areas. The funding is flexible and responds to the volatile and changing specificities of the research world. (研究者の固有テーマに領域を設けていないことに感謝している。また、特定のテーマに即した研究を採択していることも、刺激的で自由度が高い。助成金の自由度も研究分野における仕様変更や変化に対応してくれた。)</p>
<p>技術的な点では、会計報告のシステムが使いづらく、1つ1つの支出を会計簿としてみるできないので、エクセルなどに変換して自分で予算を確認しながら管理できるとよりよいと思った。</p>	<p>研究の過程で研究費の使い方を変更せざるを得ない場合は多い。研究費目の変更について、科研費程度の融通性を付与して欲しい。</p>
<p>大学側に助成を受けた時点では、オーバーヘッドのない研究を大学が引き受けるという前例がなく、すべてを個人で行わなければならなかった。(今は、民間財団でオーバーヘッドのない研究も大学で受け入れてくれる) そのため、すべてを領収書精算で対応するしかできず、しかも他大学の研究者の分もこれを行わなくてはならず、助成を受けいている期間は、研究よりも会計業務に忙殺されました。</p>	<p>トヨタ財団の会計ルールと所属大学の会計ルールが違っていたため、両者の整合性を取るのに非常に苦労したのでそこを改善してほしい。 一件ずつ行う、会計システムへの登録が少し大変でした。</p>

出所：公益財団法人トヨタ財団「研究助成プログラムに関するアンケート」

問39. 自由回答から得られた結果④その他

複数の研究者が、事後の報告機会や他研究者とのネットワーキング・意見交換の場に対する期待をうかがわせるコメントをしている。また、今後の継続的な助成についても期待が寄せられている。

その他のコメント

<p>助成終了後もプロジェクトを継続・発展させているので、何らかの形で報告できるような場があるとよいかなと思いました。また、他の研究テーマについてもどのようになったか気になります。</p>	<p>研究助成が終了した後の発展的な研究への助成があると嬉しい。</p>
<p>とても素晴らしい機会を頂戴し改めて御礼申し上げます。 p.s. 報告会がとても楽しかったです、他の助成を受けた方々の取り組みを聞けるととても良い機会でした。</p>	<p>共同研究者を依頼する際、マスコミにプロジェクトを説明する際、科研並の信頼度があることを都度実感している。</p>
<p>助成対象は、国内外の多様な現代的課題の解決を目指し、これに多角的に接近しようとする研究ばかりで大変参考になりました。意見交換の場があれば参加させていただきたいと思います。</p>	<p>助成額はもうすこし少なくてもよいので、採択件数を増やしていただけるとありがたいです。貴財団の助成は、科研のように専門分野の枠に沿って審査が行われるわけではないため、既存の研究領域にとらわれない・必ずしもはまらない研究を行う人にとっては「希望の星」です。そういう人にとっては多少少額であっても助けになり、今よりも自分の研究を前進させられるきっかけになります。少額の助成枠も用意していただくと、貴財団の助成によって、多様で斬新な研究がますます登場・進展するのではないのでしょうか。</p>
<p>非常に大きなチャンスをいただきました。共同研究でしたが、個人の研究にも大きな影響を受け、今に至っています。調査協力者とのネットワークが築けたことは、今後の社会貢献にも生かすことができ、個人的には論文発表よりも重要な成果だと思っています。</p>	<p>貴財団の方針は、シンプルかつ柔軟で、ご担当者の対応も懇切で理解があり、研究が進めやすかった。この場を借りて、深く御礼申し上げます。昨今、研究活動をめぐる環境はますます厳しさを増しており、短期的な成果やドメスティックな貢献を求められる傾向が強まっているが、貴財団には引き続きそこから一線を描き、独創的・挑戦的な研究をご支援頂きたい。</p>
<p>TOYOTA Foundation has been doing great to scholarly community. (財団はすばらしい学術コミュニティを展開している。)</p>	<p>二年間はあっという間に過ぎてしまったので、プロジェクト後継への可能性があると素晴らしいかと思います。</p>

お問い合わせ

本資料は、株式会社日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門が作成した「2011年度-2019年度研究助成プログラムに関する調査・分析支援業務報告書」の一部を、公益財団法人トヨタ財団が抜粋したものです。

公益財団法人
トヨタ財団

〒163-0437

東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル37階

研究助成プログラム

e-mail: kenj@toyotafound.or.jp

本資料の著作権は株式会社日本総合研究所に帰属します。